

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和6年度執行）

池田地域コミュニティ推進協議会

事業名	提案額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課
		説明									科目（目）
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								コミュニティ推進課 自治振興費
地域防災体制強化等事業	190	消耗品費 190	災害発生時に住民の安否確認が迅速に行え、救助が必要な人を早く発見できるよう「無事ですタオル」を配布する。	自主防災組織の具体的な活動が模索されていた	防災訓練後に無事ですタオルの掲出訓練が実施されたこともありました。	災害時に無事ですタオルを掲示することにより、救出活動等の効率が高まりました。	住民の方へ常に掲出するように周知が必要	各部会毎で評価（客観的な指標も用いた）協議会役員会で最終照査してまとめを行った。	校区内の地域団体から要望を集約し、提案に繋がっている点を評価。掲示板や公園など、ハード面の整備を重点的に進められている一方、コロナ禍を経てソフト面の事業が固定化してきており、今後の事業展開に期待。	「無事ですタオル」を活用した掲出訓練を実施したことで、災害時の救出活動等の効率が高まりました。	危機管理課 災害対策費
地域掲示板設置事業	148	修繕料 148	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるため、掲示板を設置する。また、地域団体と共に使用出来るようにする。	老朽化し使用できない部分があった。	掲示板補修。	掲示板の破損修復ができた。	掲示板を積極的に活用し、地域住民に情報を伝える。			掲示板及び掲示物の美観が保たれ視認性が向上した。今後も一層の活用を期待。	コミュニティ推進課 自治振興費
道路安全対策事業	180	修繕料 180	歩行者の安全を確保するため、見通しの悪い道路にカーブミラーを設置する。	池田小学校裏手の細い道路は見通しが非常に悪く、車両や歩行者の出会い頭の事故が発生する危険性がありました。	カーブミラーが設置されたことで、通行する車両や歩行者が交差点付近の状況を事前に確認できるようになり、安全性が向上しました。	・児童や地域住民の通行時における安全意識が高まりました。 ・ドライバーの視認性が改善され、交通事故の未然防止に繋がっています。 ・地域からの安心感の声も多く、学校周辺の安全環境整備に寄与しています。	経年劣化により、ミラーの視認性や取り付け部分の強度に問題が発生する可能性があります。今後や定期的な点検を行い、異常を発見した際には速やかに市に報告し、対応を依頼する体制を整えることが求められます。			道路反射鏡の設置により交差点通行の安全性が向上した。	土木管理課 交通対策費
公園整備事業	2,474	修繕料 2,474	前年度に設置した池田駅前公園のテーブルに日陰を確保できる屋根を設置し、身近な公園にひと休みできる場をつくる。	休憩できる場所が少ない。	テーブル・ベンチに日陰を確保できる屋根を設置。	休憩したり弁当を食べたりと、沢山の方に利用されている。				休憩施設の設置により、憩いの場、集合の場として公園利用促進に寄与した。	みどり農政課 公園費
五月山ハイキングコースサイン設置事業	300	修繕料 300	五月山のハイキングコースに、行先・距離等を表示し、ハイキングを楽しめるコース作りを行う。散策道の整備を行うことにより、地域住民の自然に親しむ機会をつくる。	従来の五月山ハイキングコースでは、案内板や道標が少なく、満足度の向上や安全面にも課題がありました。	主要な分岐点や目的地周辺にサイン（案内板）を設置したことにより、コース全体の視認性と利便性が向上しました。	ハイキングルートの明確化により、道迷いのリスクが軽減されました。 ・観光客や高齢者、子ども連れの登山者にとっても利用しやすい環境となり、地域の観光資源としての価値が高まりました。 ・地域住民の健康づくりやレクリエーションの場としての利用促進にもつながっています。	・設置したサインの経年劣化や損傷が予想されるため、定期的な点検とメンテナンス体制の構築が必要です。 ・自然環境の変化（倒木、崩落など）によって案内表示が見えにくくなる可能性があるため、環境整備と併せた維持管理の取り組みが求められます。			目印の少なかった分岐点に設置され、迷うことが少なくなることに加えて、おおよその距離が明示されたことでハイカーが安心して利用できるようになった。	みどり農政課 公園費
市民レクリエーション大会事業	450	行事報償金 450	校区実行委員会が主となり毎年、小学校運動場を会場としてコミュニケーションの拡充とスポーツ意識の向上に伴う健康づくりを目指す。	コロナ禍等により実施されていなかったが、再開に際しより多くの方が参加するよう準備する。	次回開催に伴う問題点の抽出等を実施し次回開催に備える。	参加者が多く、全般的には好評に執り行うことができ、住民の方も多数参加いただき、地域の活性化になったと考えられる。	自治会に加入されていない方への参加促進方法を検討する必要があると思われる			地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民同士の交流を図ることができた。	社会教育課 社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	132	補助金 132	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	継続事業（全戸配布）	年1回の発行、配布	地域の活動を住民に知ってもらう。				色鮮やかな紙面で読みやすく、事業報告に写真が掲載されていてわかりやすい紙面作成が行われている。	広報広聴課 自治振興費
自主防災会合同防災訓練・リーダー養成支援事業	303	補助金 303	池小校区・自主防災組織連絡会の主導により14自主防災会が一同に会する防災訓練を実施し、また各防災会リーダーの養成を支援し、地域の人たちの防災意識の高揚を図ると共に他地域の人たちとの連携を図る。	最近多発する大規模災害に自主防災会が、いかに対応するか訓練を通して、その大切さが望まれていた。	多発する災害への対応力の強化につながったと考える	総合訓練に伴い、応急手当、簡易救助器具を使用した救出訓練等を通じて実効性のある訓練が実施できた。	地域住民への災害時対応の周知強化			池小校区・自主防災組織連絡会の主導により14自主防災会が一同に会する防災訓練を実施したことで、防災意識の向上に繋がったとともに共助の推進に大きく貢献している。	危機管理課 自治振興費
池田地域コミュニティ推進協議会事務所運営推進事業	1,062	補助金 1,062	協議会活動を円滑に行うため、事務作業の支援を行うほか、地域住民への啓発及び情報発信を行う。	・池田市綾羽2-2-1 森山ビル西2Fに設置 ・専属女性事務員1名、男性会員1名で運営。	・継続運営中。	全体の活動が集約・管理されている。				事務作業については短時間の開所で効率的に処理されているものと評価。地域住民への啓発や情報発信については今後の展開に期待。	コミュニティ推進課 自治振興費
「ちいさな絵本館」推進事業	1,305	補助金 1,305	絵本の読み聞かせを通して地域住民の世代間交流を推進する。一層の内容の充実（蔵書・イベント・情報発信等）を図り、こどもたちの豊かな成長を応援する。	創立15年目を迎えた継続事業。	スタッフによる献身的な対応により、イベントも特におはなし会は好評で多数の来場者に楽しんでいただけている。	幼児連れの利用に特化された。（リピーターが多い）貸出による効果。（家計・時間・絵本に接する機会増など）子育て世代のコミュニケーションの場になっている。	池田市立図書館とのすみわけを行い、ボランティアスタッフの育成をしつつ、子育て世代のコミュニケーションの場として継続する。			子育て世帯のコミュニケーション促進の場として地域に定着しているものと認識。支援者の育成について、地域の理解・協力のもと人的資源の発掘に期待。	子育て支援課 自治振興費
いけだ学園畑プロジェクト（MTP）等支援事業	204	補助金 204	池田中学校に設けたふれあい農園について、学生が主体となりながら運営を行う。また「平和のつどい」に参加し、児童との交流を図る。	継続事業	平成30年度に整地した畑地で作物を栽培し、収穫を行った。（池田中学校）畑プロジェクトにおいては、豊作でさくら幼稚園児の芋掘りができた。	自然とのふれあい体験の交流を行うことができた。				農園の管理や「平和のつどい」の開催を通じて、地域と学校の連携・協働を深めることができた。	地域教育課 自治振興費
キッズランド支援事業	123	補助金 123	池田小学校で行われている「キッズランド」で使用する用品及び教材を購入し、充実したキッズランド活動を支援する。	教材の痛みや数の減少、監視員の不足	教材の購入により、多くの児童に利用されている	教材を利用して、のびのびと活動している	児童に教材を大切に利用するように指導する。			新たに道具を購入することで、キッズランド活動の充実につながった。	地域教育課 自治振興費
計		6,971	事業提案限度額 12,329千円 次年度繰越金額 5,358千円								

秦野地域コミュニティ推進協議会

事業名	提案額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目（目）
		説明									
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								コミュニティ推進課 自治振興費
防犯カメラ新規設置事業	340	電気使用料 10 機器借上料 312 電柱等共架料18	安全で安心な暮らしの実現に向け、街頭犯罪件数のさらなる減少を図るため、防犯カメラを設置する。	不審者等の確認ができなかった	防犯カメラの新規設置をした	防犯カメラを設置したことで、確認することができ、犯罪の抑止力にもなっている	必要な個所に防犯カメラを設置していきたい	各部会からの報告を受け、役員会でまとめたものを総会で決定する。	市の本来の予算では手の届かない部分の設備修繕について、利用者のニーズを反映し早期に改善することができているものと評価。イベント事業については継続ばかりを前提とするのではなく、地域のニーズを捉えながら、適宜見直し・ブラッシュアップを図り続けていただきたい。	地域防犯のため、積極的に防犯カメラを設置いただいている点を評価するとともに、費用対効果を勘案した管理運用を望む。	危機管理課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	328	電気使用料 10 機器借上料 312 電柱等共架料 6	安全で安心な暮らしの実現に向け設置した防犯カメラの維持管理を行う。	不審者等の確認ができなかった	設置した防犯カメラの維持管理をした	防犯カメラを設置したことで、確認することができ、犯罪の抑止力にもなっている	必要な個所に防犯カメラを設置し維持管理していきたい			継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む。	危機管理課 自治振興費
地域内会館設備改修事業	1,023	修繕料 1,023	地域内会館の設備改修を行い、利便性を向上させる。（南畑会館・渋谷会館）	地域内2会館のカーテンが老朽化していた	カーテンを新しく付け替えた	きれいになったことで使いやすくなった	必要な設備の回収を行っていきたい			会館の美観向上に高い効果があったものと評価。利用者の増加に寄与することに期待。	コミュニティ推進課 地域集会所施設管理費
地域掲示板設置事業	385	修繕料 332 シルバー活用事業委託料 53	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるための掲示板を、地域団体と共に使用するとともに維持・管理・運営を行う。	継続事業：ガラス張りにした掲示板の清掃 新規事業：東畑公民館の掲示板が老朽化していた	シルバー人材センターに年2回清掃を委託 公民館の掲示板を新しいものに取り替えた	清掃することによって清潔さが保たれ見やすくなった マグネットでガラスの掲示板は使いやすくなった	掲示板の管理について地域住民と考えていきたい			清掃を行い適切に管理いただいており、広報に有効な手段になっているものと評価。	コミュニティ推進課 自治振興費
AED管理事業	352	器具費 352	地域内の各会館に設置したAEDについて、使用期限が切れる本体の更新を行う。	地域内会館に設置したAEDの本体の使用期限が切れる	使用期限が切れる南畑会館のAED本体を交換した	安心してAED本体を使用することができる	地域住民へAED講習会などへの参加の呼びかけ			本体の更新を行い常に正常に使用できるよう管理している。共同利用施設にAEDを配置することは、多くの住民の安心感を得ることが出来るため今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていただきたい。	健康増進課 保健衛生総務費
秦野小学校設備改修事業	1,181	修繕料 1,181	子どもたちや地域が安全で快適に使用できるよう、学校施設の設備改修を行う。	体育館とブレイルームのカーテンが老朽化している	体育館とブレイルームのカーテンを取り替えた	体育館とブレイルームのカーテンを取り替えたことで暗幕の効果が上がった	小学校と連携をとり、過ごしやすい環境へ支援したい			地域と学校が交流する場の環境を改善することができた。今後も適切な備品管理をお願いするところ。	教育総務課 学校管理費
市民レクリエーション大会事業	400	行事報償金 400	地域のスポーツ振興会と子供会等の地域団体が開催する事業を支援する。	毎年度地域の協力も受け、レクリエーション大会の準備・補助を行っている。	支援することにより、スムーズな開催ができた。	地域住民の大きなイベントになっている。子ども会の活性化に寄与している。	自治会、こども会入会者の減少は止まらない。今後とも地域住民の参加率向上を図り、自治会、こども会等の発展につなげていきたい。			地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民同士の交流を図ることができた。	社会教育課 社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	400	補助金 400	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	年3回の「秦野まちづくりだより」の発行	年3回の発行をすることができた。	「お聞かせください！みなさまのこえ」では、地域内での要望を聞くことができ、「お伝えします！みなさまの活動」では、地域内で活動されている団体さんが協議会の事業に参加協力いただけることとなった	今後も活動のPRを進めて地域住民とのコミュニケーションを向上させていきたい。協議会の会員の募集も含め、啓もう活動及び行事参加者増加に努めたい。			季節に合わせたデザインで、内容も簡潔にまとまっていて読みやすい。LINEを活用した運用をこれからは継続してほしい。	広報広聴課 自治振興費
合同防災訓練事業	100	補助金 100	小学校児童と地域住民が合同で防災訓練を行い、防災意識を高めるとともに地域住民と交流を図る。	秦野小学校3年生、4年生児童、保護者、南畑公園自主防災会合同防災訓練を支援する	6月に秦野小学校・PTA・南畑公園自主防災会合同訓練を実施し、11月に地域での防災訓練を実施した。	防災訓練を実施したことにより、地域の安全について考えることができた。	色々な体験ができるよう、防災訓練の内容を検討する			小学生と地域住民が合同で防災訓練を実施したことで、防災意識の向上に繋がったとともに共助の推進に大きく貢献している。	危機管理課 自治振興費
校区盆踊り大会事業	200	補助金 200	スポーツ振興会と子供会等の共同開催である盆踊りを支援する。コミュニティ意識の高揚を図る。	スポーツ振興会・子ども会等で開催している。コミュニティ意識の高揚をはかる為に積極的に支援をする。	備品などで共同開催を支援しており、参加人数も増加している。	備品を備え、スポーツ振興会・子ども会への支援が充実したと思われる。	踊りや太鼓の継承、参加する側から開催する側への転換期の支援など			地域振興、地元の交流の場づくりに寄与しているものと考える。	シティプロモーション課 自治振興費
地域イベント活性推進事業	938	補助金 938	地域の交流と地域活性化を図るため、地域活動を推進・支援していく。	あおぞらdeはたのフェスタ、雪あそび	あおぞらdeはたのフェスタは地域の方々が参加・来場し盛況であった。ふわふわゴリラも好評。雪遊びを開催することができた。	あおぞらdeはたのフェスタを開催することで、地域住民同士の顔合わせができ、親睦をはかることができた。雪遊びを開催することで、子どもたちは普段見られない雪にふれることができた。	もっと地域住民主体でできるようなことを考えたい。雪遊びは、今後も栗村外の地域を確保したい。			地域の方々が多く参加・来場されたことで、地域住民同士の顔合わせや親睦が図れたことは、非常に良い事業効果であったと考える。	シティプロモーション課 自治振興費
イベント備品整備事業	704	補助金 704	地域の交流と地域活性化を図るため、地域活動を推進・支援していくための備品等を整備する。	地域活動をするにあたって、備品の使用期限がきたり、整備が必要な備品があった	地域活動に必要な備品の整備：消火器の買い替え、テント天幕・テント袋・音響設備	あおぞらdeはたのフェスタや地域の盆踊りなどで役に立っている。	地域活動に必要な備品の整備をしていきたい			地域イベントに必要な備品を整備したことで、一層、地域活動が円滑になったと考える。今後も地域内で有効活用していただきたい。	シティプロモーション課 自治振興費
はたのひろば兼事務所管理運営事業	990	補助金 990	地域内のコミュニケーションを密にすると共にコミュニティ会員相互の事務の効率化を図るため開設したはたのひろば兼事務所について、管理運営を行う。	はたのひろば兼事務所の平日開所の継続	平日は13時～17時開所。毎月、ミニイベントを行っている。	会員の会議・打ち合わせ以外に立ち寄る方もさらに増えている。はたのひろばを利用したミニイベントの開催も盛況	コミュニティ活動の拠点施設として事務所機能を充実させるとともに地域住民・地域団体の利用も促進。			週5の開設を継続し、コミュニティ機能の維持に寄与しているものと認識。	コミュニティ推進課 自治振興費
はたのひろば兼事務所整備事業	837	補助金 837	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広くPRするためのSNS開設に向けた備品整備を行う。また、車いすの方でも来訪しやすいよう、ひろば入口にスロープを設置する。	IT化に遅れていた事務所に車いすで入れない	タブレット端末を整備、事務所の入り口にスロープを作った	タブレット端末から情報発信ができるようになり活動が広く知られるようになった。スロープから車いすで事務所に入るようになった。	コミュニティ活動の拠点施設として事務所機能を充実させるとともに地域住民・地域団体の利用も促進。			利用者が安心安全に訪れられる事務所としてより地域に開かれた場所になることを期待。情報発信についてはより一層の活用を望む。	コミュニティ推進課 自治振興費
地域ギャラリー維持管理事業	50	補助金 50	コミュニティ事業の情報発信、地域住民の作品掲載、地域行事等の広報を行うためギャラリー掲示板の維持管理を行う。	1カ月ごとに作品を入れ替えている。備品の不足。	1カ月ごとに作品の入れ替えを継続 備品の充実	季節感のある作品も多く、足を留めて見ているかたもいる。備品を整備したことで、取り外し・掲示がしやすくなった。	作品集めはまだまだ必要を感じている。いろいろな作品を掲示・展示していきたい。			作品の展示を通じて、地域のつながりが生まれているものと評価。	コミュニティ推進課 自治振興費
農業体験学習事業	400	補助金 400	地域の子どもたちに農業体験を通じて、地域交流を深めるとともに、食べ物の大切さ、作り育てる喜びを体験し、農業への理解を深める。	継続事業：貸農園を使い畑で作物を作る過程を学習している	地域で貸農園を使い、玉ねぎを収穫し、土地を耕しサツマイモを植えて育て、収穫した秋には玉ねぎを植えた。	普段、土を触ることが少ない子供たちに、育てる楽しみ、作物の出来方、大変さが伝わった。	できるだけ多くの地域住民に参加してもらおう よう啓蒙活動をしたい			農業体験を通じて、地域での交流を広げることが出来た。	みどり農政課 自治振興費

北豊島地域コミュニティ推進協議会

事業名	提案額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目（目）
	説明										
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								コミュニティ推進課 自治振興費
防犯カメラ新規設置事業	61	電気使用料 2 機器借上料 56 電柱等共架料 3	安全で安心な暮らしの実現に向け、街頭犯罪件数のさらなる減少を図るため、防犯カメラを設置する。	今回 北豊島交番が統合の為、連絡所になり、警察官が不在となり、地域の住民から不用心の交番に代わる防犯カメラ設置の要望があった。	地域の住民に安心、安全感を与えた。	犯罪等発生した場合、確認等が出来るようになった。	北豊島地域において、安心、安全を図るため、他に必要であれば設置要望をお願いしたい。	各部会でまとめられていたものを役員会で決定する。	一部の事業において事業実施が叶わなかったことは遺憾であるが、きたてしまプラザを拠点に、さまざまな地域の団体と連携した幅広い事業展開を行っておられる点を評価。若年層の加入による機動力の向上を契機に、組織力を高めていっていただきたい。	地域防犯のため、積極的に防犯カメラを設置している点を評価するとともに、費用対効果を勘案した管理運用を望む。	危機管理課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	251	電気使用料 10 機器借上料 239 電柱等共架料 2	安全で安心な暮らしの実現に向け設置した防犯カメラの維持管理を行う。	防犯上で不安な箇所であったが安全安心なまちづくりの一環として防犯上強力な機器防犯カメラの設置要望があった。	令和6年度府道10号線に1基新設、（豊島北国道アンダーパス荘園公園付近置）計3基、地域住民にとって防犯上安心安全効果に大いに役立っている。	地域の安全、安心に大いに役立っている。	設置維持管理費用が大変だが出来ればもう少し地域の安心安全の為、増設したい。			継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む。	危機管理課 自治振興費
地域行事活動促進事業	85	行事報償金 85	地域行事（校区盆踊り大会・校区秋祭り等）に必要な備品等の支援を行い、地域内行事の活性化を促す。	日本の伝統行事のまつり、盆おどり等住民の情報交換が希薄になっている昨今、今後も地域行事を大切にしていきたい。	まつり、盆踊り等、人口の減少、高齢化に伴い資金面で取りやめる所もあると聞きます。行事報償金、少額ではあるが執行することで住民対話も高まり活気ある行事が行われるようになった。	地域の行事に参加者も増え、行事報償金は少額であるが各地域とも行事維持資金として役立っている。	地域、場所により条件の違う状態にあると思うのでそれぞれの行事報償金支払先の意見等聞きより良い方向に配慮する必要があると感じる。			地域内での対話も行われることで、地域活性化・交流のきっかけにもなっており、良いツールにもなっていると考え。今後も各地域イベントで行事報償金を有効活用していただきたい。	シティプロモーション課 自治振興費
AED管理事業	704	器具費 704	地域内の各会館に設置したAEDについて、使用期限が切れる本体の更新を行う。	AEDは万が一の時に、人の生命をまもるものであり、出来るだけ多くの公共施設に設地しなければならない。	AEDは北豊島プラザ・住吉会館・北豊島会館・荘園会館の4カ所に設置されていて、今年度は、北豊島プラザと荘園会館（故障）のAEDを入れ替えました。	プラザ等で実施される会議、イベントが安心して行える。	AEDは万が一の時に、人の生命をまもるものであり、出来るだけ多くの公共施設に設地しなければならない。			本体の更新を行い常に正常に使用できるよう管理している。共同利用施設にAEDを配置することは、多くの住民の安心感を得ることが出来るため今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていただきたい。	健康増進課 保健衛生総務費
街路灯強化事業	62	電気使用料 12 修繕料 50	安全・安心なまちづくりの一環として防犯対策強化を目的に街路灯を整備する。	道路照明は、路狭小、道路交通並びに道路交差部、防犯上問題がある場所の安全を解消を図る必要がある。	通学路や交通量の多い狭あい道路の照明が不十分であると思われるところの交通安全を図り、今年度は豊島南に1基と基設置しました。	道路照明を設置ならびに灯器の新設並びにリニューアルにより、夜間でも明るく安心して通行でき交通安全が図れた。	狭あい道路で道路照明の設置が必要であるため、年次ごとに設置を進めていく。			街路灯を適切に維持管理することで、夜道の防犯対策に寄与することができた。	土木管理課 交通対策費
防犯灯強化事業	1,797	修繕料 1,797	安全・安心なまちづくりの一環として、夜間の広場を明るくし、防犯対策強化を目的に防犯灯を整備する。	ソーラー・LED照明灯<第3号機>設置済（豊島野公園・荘園1丁目第2公園）は、治安・災害時の避難場所として、活動中ですが、北森木公園第1号機も早10年が経過。蓄電池も（5年持てば良い方ではあるが）寿命をはるかに超過しており交換が必要である為、蓄電池交換の実施を申請。 予定…（R5/7月） 場所 北森木公園第1号機） 予算…13.2万円 ソーラー・LED照明灯（1基）設置工事 設置<第5号機> 設置場所…荘園1丁目第1公園（豊島野公園・荘園1丁目第2公園、北森木公園、北今在家広場よりの展開） 現在、LED証明（電源供給式）は設置済み。全体的にチョット暗い感であり、治安面での不安有。※設置条件（利用度、規模、等）により設置に適しコミュニティ協議会PRに最適なテーマである。 設置時期R6/6 予算…1,665千円	ソーラー街路灯の効果は大きく、治安、災害時の避難場所としての効果が従来同様、安心して期待できる。 10年をはるかに超えたソーラー・LED照明灯の蓄電池交換を完了。<対象下記2箇所> 既設／1）平成24年7月実施「豊島野公園内」1基 既設／2）平成25年8月実施「荘園1丁目第2公園内」1基 結果…（R6/6/7）完了 場所 北森木公園第1号機1基 費用…132.0千円 参加者 作業者1名、関係者2名 地域住民への「太陽光による、屋外用LED照明」設置における効果大。 設置…R6.5/20～/15完了 費用…1,665千円 参加数…作業者13名（関係者5名）	・設置後の年数から見て、いつ切れてもおかしくない状態にある。 ・コミュニティ協議会としての導入取組みPR活動、看板設置、広報誌での紹介 ・早目の交換が必要です。 ・現状品に対しては、明るくなって安心して！とお礼の言葉を頂く。 ・設置後の環境の変化を積極PRする。 ・今後、公園を含め設置可能箇所への導入展開活動をすすめる。 ・コミュニティ協議会としての導入取組みPR活動に貢献することを期待。 説明用プレート設置、広報誌での紹介を実施。	・設置場所に対する近隣住民とのトラブル防止の為、自治会を含め十分説明をする。 ・定期的に点灯チェックを実施し、状況確認を定期化する。 ・初期不良等の確認を十分実施します。		公園内の防犯対策を通じて、地域の防犯に対する意識が高まっている。ソーラー照明灯は、停電時でも一時的に使用することができ、地域にとって有用である。	みどり農政課 公園費	
市民レクリエーション大会事業	150	行事報償金 150	住民間のコミュニケーションを図る、校区レクリエーション大会に必要な備品の購入を行う。	野外レクリエーションでもある事から、コロナ感染対策を充分に考慮しながら開催しました。 プログラムも皆さんが参加できるように順番など内容を考えました。	令和6年10月20日（日）午前9時～12時半にかけ北豊島小学校グラウンドで実施、多くの方々の参加で幅広い年齢層の方々が楽しまれた様子でした。	多くの地域住民が親睦を深め、健康増進とコミュニティの輪を広げられました。	参加予定人数の把握が難しかった。			地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民同士の交流を図ることができた。	社会教育課 社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	321	補助金 321	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	協議会の活動内容を地域住民に告知するための広報誌として年間3回、7,500部を作成して各戸に配布。	コロナウイルス感染症の収束傾向に伴い、地域コミュニティの活動も活発さを取り戻しつつある。 コミュニティ紙のさらなる発信と内容の充実が期待されている。	協議会メンバーの間では活動は活発であるが、協議会の活動が一般住民に浸透・認知されているとは言えない。	①広報誌の内容の充実を図りたい。記事内容に新鮮さが欠ける。 ②協議会メンバーが高齢化の傾向にある。青年や、小学生の父兄といった若い人たちが協議会に入会したいと思うような、魅力ある紙面構成・記事内容を目指したい。 ③編集開始から発行までの期間が長すぎる。短縮を図りたい。			季節に合わせたデザインで、内容も簡潔にまとまっていて読みやすい紙面作成ができている。	広報広聴課 自治振興費
防災訓練開催事業	20	補助金 20	協議会拠点でもあり、各種教室等で多くの人が集まるきたてしまプラザでの非常時に対する防災訓練を行う。	北豊島地域において、令和6年1月1日の石川県の能登半島地震を始め、将来予想される「東南海地震」地球温暖化に伴う異常気象による、局地的豪雨等の災害に備える必要がある。	きたてしまプラザに危機管理課より講師を招き、災害時の対応実演講習することで万一の災害に住民が「命を守る」一助となる様、訓練を実施した。 参加者 33名	幼児から高齢者にわたり、防災に対する認識が深まった。	防災は、地震・大雨・火災等様々な災害があり、それぞれに沿った防災訓練を実施していきたい。 又、繰り返し訓練を行うことで体に覚えさせる事が必要である。			災害時における地域の防災力向上に期待するとともに、地域住民を巻き込んだ活動は、互助の推進に大きく貢献している。	危機管理課 自治振興費
地域防災体制強化等事業	50	補助金 50	新設自治会への資機材配備を充実させ、地域の防災体制の強化・推進を図る。（第2荘園自治会）	校区に7自主防災組織があるが歴史の防災組織、新しく設立された防災組織等があり、防災設備も格差がある。必要とする防災設備も資金の関係で困難であった。	今年度より補助金、少額ではあるが順次防災設備の不足設備が購入等が出来た。（今年度荘園2丁目防災組織）	一挙に防災設備を整える事は困難としても徐々に充実させていきたい。	市の予算上設備投資は困難な様なので池田市自主防災組織機材助成交付金申請等で防災設備充実していきたい。			防災備蓄品の購入を行い防災体制強化に取り組んでいる。	危機管理課 自治振興費
避難行動ウォーキング事業	18	補助金 18	避難場所や移動ルート、移動方法の確認を行い、日頃からの安全への意識を高める。	「最近災害が多発しております！」 「日々の安全確保の認識自覚」を身に着ける 1）避難場所の把握、2）移動方法、3）移動ルートの問題点を熟知、4）移動訓練を実施、5）問題点の洗い出し改善活動を計画しました。 ＜計画＞開催1回／年 予定（R6/5月）、行動「荘園」「豊島南」「住吉」地区～北小「防災備品倉庫」 予算…1.8万円	【重点1】活動拠点、中心となる人物の選定をしました。 1ー1…今回の対象地区は、「荘園」「豊島南」「住吉」地区に限定。 1ー2…「リーダー」を高校、中学生!!「サブリーダー」を小学生とする。 ※災害時の学生の判断力／活動力と「幼児／高齢者」を引率する能力に期待、任せました。但し安全確保には、保護者をお願いしました。 【重点2】集合先は「北豊島小学校防災備品倉庫」見学とする。 ※最終的に「ルート図」「問題点メモ」を提出願いました。 結果…R6/9/15am9:30～11:00完了 参加者…34名 費用…21,465千円	①「第1回目の開催に、皆様のご協力頂いた事に深く感謝いたします。 ②身近な災害への対応力を付け防災意識充実の目的は、果たせたと思います。 ③今回の実践で「ルートでの危険箇所・物・状況判明」「防災倉庫保管品」を確認できたことは、大きな収穫です。	・避難訓練をも兼ねておりますが、事前準備不足は否めません。反省 ・年少の子供さんから中学生まで、幅広い事業の立案が不可欠であり、準備不足は、次回開催の大きな課題とさせていただきます。		中学生・高校生をリーダー、小学生をサブリーダーとして確立し、災害時の学生の判断力や活動力及び幼児・高齢者を引率する能力に期待し、訓練できたことは、非常に効果的・効果的であり今後に役立つものである。	危機管理課 自治振興費	

きたてしまプラザ活用事業	2,585	補助金	2,585	地域住民相互の交流の拠点として住民対象の文化教養教室、子育て支援活動、中学生学力向上のために「池田ふくまるはばたき塾」開講支援等を行うとともに高齢者等憩いの場としての談話室の使用活動を行う。	きたてしまプラザを地域住民相互の交流拠点として、住民対象の文化教養教室（うたうプラザ 氣功護身術 囲碁将棋教室）子供支援活動（あそびの広場 スマイルン）を続けていく。又談話室も完成し、本格的に高齢者等憩いの場として有効活用していきたい。	今年度はコロナ禍の影響も少なくなり、通常活動に戻しております。協議会の拠点として又各種文化教室開催場所 子育て支援 地域住民相互交流 親睦の場として開放運営する目的で十分に活用されています。（利用回数及び参加者 1,087回 10,048人 教室 259回 2,959人）	当協議会の拠点として、地域住民にも認知され、利用者も多くなっております。	今後も多くの地域住民に利用される協議会拠点として運営していきたい。 高齢者、地域の方々どなたでも気軽に利用できるプラザにしたいと考えております。	本施設を拠点に開講されている各種教室や事業は多くの方に利用されており、地域住民の交流創出に寄与しているものと認識。	総務課 自治振興費	
きたてしまプラザまつり事業	60	補助金	60		協議会の活動状況を年に1回、地域住民に広くPRすることを目的として祭典を開催する。	北豊島地域コミュニティ推進協議会活動状況PRの場として、新型コロナ、インフルエンザ等感染対策を充分行い実施しました。	令和6年11月17日(日)10～12時に北豊島プラザで実施。 100人以上の参加があり楽しまれ好評でした。	多くの参加者で、住民のコミュニケーションが図られました。	準備、片付け時に男性の力が必要なため、事前の協力依頼が必要でした。	地域行事を通して住民さん同士コミュニケーションを図れることは非常に大切だと考える。多くの方々が来場され好評を受けたとのことで地域のお祭りとして引き続きコミュニティの創出に努めていただきたい。	シティプロモーション課 自治振興費
地域医療講座開講事業	10	補助金	10		高齢社会に向けて、認知症等の防止・改善等に対する講座を開催する。	医療関係者による医療講座を受ける機会が少ない中、地域住民に役に立つ医療関係の講座を定期的に開講する。	R6/10/24 石橋翼地域包括支援センターの講師を迎え、認知症予防健康管理講座を開講。受講者52名。予防について理解できた。	認知症防止にはどのように対応すべきか勉強になった。	今回は地区福祉協議会にも声をかけ、今後も合同で受講を進めていきたい。 来年度も講座内容を考慮し継続開催を進めていきたい。	認知症の方やその家族が住み慣れた環境で自分らしく暮らし続けるためには、認知症に対する地域の理解を深めていくことが重要であるため、引き続き活動を進めていただきたい。	地域支援課 自治振興費
子育て支援事業	663	補助金	663	あそびの広場（年間49回）を開催し、紙芝居や絵本、TVシアター等親子のふれあい遊びと子育ての悩み等を関係者とともに語り合う。	（ロケットキッズ） 0才から保育所を利用される方が多くなり、ベビーマサージを再開してもロケットキッズ利用者増加には繋がりませんでした。 ベビーマサージを英語リトミックに変更し、ランチタイム、おやつタイムを再開しました。 あそびの広場は1日参加組数限定を解除し、予約制を続けて実施しました。 （スマイルン） 子どもの成長に不安や心配を抱えているお母さんや子どもとの関わり方、遊び方が分からないお母さんに、親子遊び（体遊び）を通して笑顔になる子育てを保育士がお手伝いできたらいいなと思って活動を始めました。	（ロケットキッズ） ランチタイム、おやつタイムを再開することで、午前・午後を通して利用する方が増えました。また、みんなと一緒に食事することで、食事のマナーを守れるようになり、喜んでいるお母さんもいました。 英語リトミックの参加者が増えロケットキッズの存在を広く知ってもらえました。 （スマイルン） 活動に必要な遊具を購入でき、支援内容も充実し、幼稚園や保育所、療育に通うまでの遊びの経験を積む場としてスマイルンを利用されました。	（ロケットキッズ） 子育て中のお母さん達の情報交換の場所だけでなく、子育ての悩みを一緒に考え合うようになり、気軽に今困っている事を話せる場になっていました。 （スマイルン） 子育てで悩む保護者が毎週関わりの経験を積むことにより、子どもが確実に成長する姿を実感することが出来ました。それより、親子の笑顔が増えた。また、子育て相談会を開催することにより、悩み事を一緒に共有し、共感し合える時間を持つことが出来ました。	（ロケットキッズ） 英語リトミックの参加者が増えましたが、通常のロケットキッズ参加に繋がらず、ロケットキッズ利用者の増加が課題です。 （スマイルン） 子育てに悩み、困っている方に活動情報を伝えることが出来るよう、子育て支援の関係機関と繋がりが協働していくにはどうするのか、大きな課題があります。	親子の交流の場として地域に定着しているものと認識。地域の社会資源を発掘・活用しながら、新規の方の参加を促すような取組を期待。	子育て支援課 自治振興費	
環境美化ウォーキング事業	37	補助金	37	継続的に地域の清掃活動を行うために必要な用具を購入し、子どもたちを含む地域住民が地域美化運動を展開する。	北豊島地域内の環境改善の為、地域を分割しゴミ等を拾いながら、ウォーキングを通じて、「ゴミの発生場所と分析」を実施しゴミ撲滅美化活動と健康に気をつける。地域住民と協力しあい、ゴミを出さない為の啓蒙活動を強化する。＜コロナの猛威収まらず状況確認対策要＞ 計画…2回/年予定（R6/9、R7/3）、場所…「住吉、豊島北地区」。予算…3.7万円	本年度の「環境美化ウォーキング事業」はくすべて中止 実施日…第1回目R6/9月はく中止＞、計画変更の理由はコロナ対策が最大の要因である。完全なコロナウイルス対策をした上で実施するべきでした。 第2回目…R7/3月もく中止＞、今後は「コロナ」から「インフルエンザ」の大流行により、R7/1月～2月中くA型＞⇒R7/2月中～3月くB型＞と感染が広がり、小中学生から高齢者まで拡大した為やむを得ず中止の措置をとる。 参加者…00名 費用…00.0千円 結果…第1回目/第2回目とも《中止》生命に危険あり！！	ウォーキングにより、・気持ち・見る目の変化・四季の変化、地域の変化を感じ、コロナ対策はそれなりに実行し十分な効果は得られました。 ・小学生、中学生の参加により継続性が期待出来たのではと感じました。	・コロナ・インフルエンザ対応に適した事業活動を計画致します。 ・子供～高齢者まで、安全で安心な活動を立案し継続を心がけます。 ・来年度以降は、開催時期の検討も十分考慮します。	事業未実施により未評価	環境政策課 自治振興費	
環境にやさしいエコクッキング講習会開催事業	40	補助金	40	食材調達から料理、楽しい食事、後片付けまで、環境に配慮した家計に優しいクッキングスタイルの講習会を開催する。	＜キッチンからできる地球への思いやり＞をテーマに、毎日の食材調達から料理、そして楽しい食事、後片付けまで環境に配慮する（エコロジー）だけでなく、「アレنجレジビで効率よく使いこなし、色々な工夫で無駄をなくしましょう ＜季節毎テーマ（ワンプレートクッキング）を立案！！ ＜コロナの猛威収まらず、状況確認対策次第。＞にて実施の可否決定 予定…1回/年（R6/8or R6/12月） 予算…4.0千円	本年度の【コロナ拡散状況を見て】募集時にコロナへの恐怖心を脱ぐへず、開催延期！！その後、「コロナ」から「インフルエンザ」の大流行により、R7/1月～2月中くA型＞⇒R7/2月中～3月くB型＞と感染が広がり、小中学生から高齢者まで拡大した為、やむを得ず中止の措置をとる。生命に危険あり！！ ＜参加辞退＞が相次ぎ、やむおえず本年は見送りと致しました。 結果…中止 費用…0.0千円	「一貫したエコロジー」を身をもって実践が出来なかったのは残念です。	日頃何気なくやっている事であるが、新鮮な感覚にて自然に身につけてもらう。 感染症対策に対する対応も重要なファクターとして十分な対策要。季節感を考慮してもらおう。『継続が重要課題』であった。	事業未実施により未評価	環境政策課 自治振興費	
北豊島地域花いっぱい整備事業	110	補助金	110	地域の子ども達が安全に遊べる場の提供として、豊島北2丁目公園に花壇を作り花を育て、地域住民の憩いの場とする。また北小生が育てた花を地域の施設に配布し、地域全体に潤いをもたらす。	豊島北二丁目公園にて「地域の高齢者休憩所、幼い子供たちの遊び場、若いお母さんへの憩いの場を提供」し、四季の変化を体感してもらおう。地球温暖化の影響による暑さ対策にも効果あると考えます。 予定…2回/年（R6/6、R6/11） 予算（2回分）…5.0万	＜コロナ対策にて、コロナ感染防止可と判断（例、検温・マスク・消毒。他）＞し実施致しました。 実施場所…豊島北二丁目公園 園芸高校の先生/生徒さんの指導を受け、花壇に季節にあった草花を植替え、いやしを与え楽しんで頂く為実施。市役所の関係者も参加頂く 誰でも、気楽に参加できる環境づくりによる輪の展開を心掛けます。 結果…2回/年（第1回目R6/6/22、第2回目R6/11/24）完了 費用…50.0千円 参加者…32名（関係者 子供…6名、園芸…6名、市…2名）	地域・季節における美化活動への意識付けをPR。花の植え方・育て方等の実地講習を受け、花を可愛がる心に潤いを与え、子供が安心して遊べる安全で清潔な公園と喜ばれております。花泥棒も多少減り、徐々に効果が出てきた模様です。	①子供～高齢者まで、安心して和やかに過ごせる場所の確保。年2回の花植え実施に園芸高校の先生/生徒さん・地域住民の皆さんの一層の協力を頂く必要があります。園芸高校の先生には、担当先の変動があり引継ぎ等の問題解決も重要です。 R7年度担当交代です…	地域のつながりが薄れつつあるなかでも、園芸高校と交流し、美化活動への意識向上と共に憩いの場が提供出来ている。	みどり農政課 自治振興費	
計	7,124			事業提案限度額	8,692千円	次年度繰越金額	1,568千円				

本施設を拠点に開講されている各種教室や事業は多くの方に利用されており、地域住民の交流創出に寄与しているものと認識。	総務課 自治振興費
地域行事を通して住民さん同士コミュニケーションを図れることは非常に大切だと考える。多くの方々が来場され好評を受けたとのことで地域のお祭りとして引き続きコミュニティの創出に努めていただきたい。	シティプロモーション課 自治振興費
認知症の方やその家族が住み慣れた環境で自分らしく暮らし続けるためには、認知症に対する地域の理解を深めていくことが重要であるため、引き続き活動を進めていただきたい。	地域支援課 自治振興費
親子の交流の場として地域に定着しているものと認識。地域の社会資源を発掘・活用しながら、新規の方の参加を促すような取組を期待。	子育て支援課 自治振興費
事業未実施により未評価	環境政策課 自治振興費
事業未実施により未評価	環境政策課 自治振興費
地域のつながりが薄れつつあるなかでも、園芸高校と交流し、美化活動への意識向上と共に憩いの場が提供出来ている。	みどり農政課 自治振興費

くれば地域コミュニティ推進協議会

事業名	提案額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目（目）
		説明									
青バト隊パトロール活動事業	272	修繕料 10 保険料 17 補助金 245	青バト隊による地域巡回活動を行い、各種犯罪の抑止に努め、安全な地域環境をつくる。	青バトでの呉服小学校区内巡回パトロール実施により、各種犯罪の抑止効果を図る。	呉服会館敷地内に設置した青バト駐車場を拠点に、隊員による巡回回数や巡回範囲の拡充を図ることで地域の安全確保ができている。	呉服小学校区内の細い道まで巡回範囲を広げることにより、各種犯罪の抑止効果に車両を活用できた。	より一層の巡回活動の充実を図る。	各事業責任者の意見を聴き、協議会で決定する。	コロナ禍による活動制限が緩和される中、部の事業について実施できなかったことは遺憾。事業実施に当たっては、あらかじめ事業計画と役割分担を明確にし、計画的な予算執行と会員間の負担の偏りがないようお願いするところ。	今後も引き続きパトロール活動の強化に努めていただきたい。	危機管理課 一般管理費 総務課 財産管理費
地域内会館設備改修事業①	270	修繕料 270	地域内会館の設備改修を行い、利便性を向上させる。（満寿美会館）	地域内における会館施設の設備が老朽化している。	地域内における会館施設の設備を改修し地域住民の利便性を向上させることにより、利用者の賛辞の声を届いた。	老朽化した設備を改装することにより高齢者も利用しやすくなり大いに歓迎されている。	他の共同利用施設等の設備も改修を検討していきたい。				
地域内会館設備改修事業②	223	修繕料 223	地域内会館の設備改修を行い、利便性を向上させる。（姫室・室町会館）	地域内における会館施設の設備が老朽化している。	地域内における会館施設の設備を改修し地域住民の利便性を向上させることにより、利用者の賛辞の声を届いた。	老朽化した設備を改装することにより高齢者も利用しやすくなり大いに歓迎されている。	他の共同利用施設等の設備も改修を検討していきたい。				
地域内会館備品整備事業	132	庁用器具費 132	地域内会館の備品整備を行い、利便性を向上させる。（姫室・室町会館）	地域内にある会館施設の備品が老朽化していて安全面で不安がある。	共同利用施設の老朽化した備品を新規に買い換える、改装、装備することにより、利用者の賛辞の声を届いた。	老朽化した備品を新規に買い換える、改装、装備することにより企画行事が円滑になり大いに歓迎されている。	他の共同利用施設等の備品も買い換えを検討していきたい。				
地域掲示板設置事業	453	修繕料 453	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるため、掲示板を設置する。また、地域団体と共に使用出来るようにする。	地域内にある掲示板の老朽化が激しいため、広報活動に支障があった。	老朽化した掲示板に変わり、新たに設置した掲示板は、ワイドで大きなポスターも充分張ることができ、住民からも賛辞の声があった。	ワイドで見やすい掲示板に付け替えたため、地域の広報活動が活発化した。	地域のお知らせや地域コミュニティ推進協議会の活動も、この掲示板を通じて地域住民に広く知らせることができる。今後も広報活動の充実を図る。				
街路灯強化事業	69	電気使用料 19 修繕料 50	夜間の事故や犯罪を未然に防ぐため、街路灯の設置及び維持管理を行う。	地域内の街並みでうす暗い道路等に街路灯を設置し、安全確保に努める。	地域内に街路灯を設置することにより、夜間の安全を確保することができた。	市民が通行する道路に街路灯を設置したことで、地域住民から安心して夜間の通行ができるとの喜びの声が聞こえてきた。	地域内のうす暗い場所等に安全確保のため、街路灯の設置を進めていきたい。				
道路安全対策事業①	144	修繕料 144	歩行者の安全を確保するため、見通しの悪い交差点にカーブミラーを設置する。	交通事故等の危険をはらんでいる交差点に安全な施策を推進して事故の防止を図る。	カーブミラーの設置により、安全性が向上した。	カーブミラーの設置により、子どもやお年寄りを交通事故から守れるようになった。	地域内には、まだまだ危険な個所が点在しているので、カーブミラーの設置を順次検討していきたい。				
呉小吹奏楽クラブ支援事業	476	校用器具費 476	呉小吹奏楽クラブの楽器購入を支援する。団体の活動支援を行う。	呉服小学校の吹奏楽クラブの楽器が老朽化していて、正確な音程を出せない状態である。	老朽化した楽器を新規購入することで、古い楽器を新しく入ってくる児童の練習用に活用している。	新しい楽器演奏で技術の向上に役立つとともに、練習用の楽器ができたことで更なるレベルアップが図れ「日本管楽合奏コンテスト最優秀賞」を受賞した。	年々老朽化する楽器を計画的に買い替えることがこれからも必要と思われる。				
市民レクリエーション大会事業	350	行事報償金 350	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。コミュニティ意識の向上に努める。	地域のスポーツ振興会が開催している市民レクリエーション大会を支援する。	当協議会が行事報償金として支出することで、地域住民のコミュニティ意識の向上を図る。	市民レクリエーション大会に当協議会が参画することで地域住民のコミュニケーションの向上が図れた。	他地域の行事報償報奨金とも検討し、校区の市民レクリエーション大会が活性化するように努める。				
地域コミュニティ紙等発行事業	519	補助金 519	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸配布する。	協議会の存在や活動内容について、地域全体に広報することで理解をしてもらっている。	未実施		今後も益々内容の充実を図り、毎年実施している事業のお知らせや協議会への参加を促進していきたい。				
合同防災訓練事業	240	補助金 240	不慮の災害時、地域住民と協力し難局を乗り越えられるよう、住民相互による協力関係を構築するため、呉服小学校区内の合同防災訓練を実施する。	校区内での防災訓練は、8自治会で実施して、実際の災害が発生した場合を想定した上で、地域住民同士が一体感を得ることができた。	呉服小学校の校庭で、合同防災訓練（8自治会）を実施することで、地域住民同士が一体感を得ることができた。	不慮の災害時、自主防災会と地域住民が協力して難局を乗り越える事ができるよう、相互信頼の構築ができた。	防災訓練の内容をより充実させることにより、地域住民との信頼関係をさらに向上させること課題と思える。				
くれば祭り開催事業	700	補助金 700	くれば祭りを各種団体と協働で開催する。地域の人と人との繋がりを深め地域コミュニティの活性化を図る。	くれば地域内のコミュニケーションの充実を図ることを目的にPTAと合同で祭りを開催する。	呉服小学校において、くれば校区の住民である子供からお年寄りまで楽しめるイベントを開催した。地元の参加団体を募集し、店舗とステージ以外にも無料の子供用遊具を設置。	あいにくの雨でしたが、くれば小学校区の子供から大人まで参加してもらい大盛況だった。ステージや遊具は無料、店舗は格安の値段だったので大好評だった。	地域内のコミュニケーションを今後も積極的に図り、地域のつながりを広げていきたい。				
地域イベント備品整備事業	218	補助金 218	地域で開催されるイベント等に使用する備品を整備し、地域の活性化を図る。	地域で開催されるイベント等に使用する備品を整備し、地域の活性化を図る。	地域で開催されるイベントに使用する備品を整備できた。	イベント等に使用して好評だった。	必要な備品をそろえていきたい。				
地域コミュニティ推進協議会拠点管理運営事業	2,599	補助金 2,599	呉服会館を地域コミュニティの拠点施設として管理運営を図る。	共同利用施設呉服会館の一室を地域コミュニティ推進協議会の活動拠点として、備品等の整備を進めている。	地域コミュニティの拠点として、「WiFiの導入」など地域活動の活性化が図られた。	協議会における役員会や各部会の活動が活発に展開され、地域分権推進に大いに役立っている。	小会議室の再整備と備品購入で協議会活動の更なる活性化を図る。				
リユース活動事業	60	補助金 60	家庭で不要になった子ども服等を融通しあうことでリユースを推進する。	衣服に名前を書いてしまっているような衣料品は店舗での引き取りをしてももらえず捨ててしまわなければならないので、融通しあう家庭で不要になった子供服をリユースする	とても好評で、来年もぜひ開いてほしいという言葉を頂いた。	地域分権の子育て世代への認知度が上がった。	どうしても衣類が余ってしまうので余った分を施設等へ寄付したい。				
道路安全対策事業②	330	補助金 330	児童が登下校の際に利用する通学路にグリーンベルトを設置し、児童の安全を確保する。	児童の登下校時に利用する通学路に、交通事情の激しい危険な箇所があり、交通事故が発生しないかと気になっていた。	グリーンベルトで歩行者の安全が向上した		地域内には、まだまだ危ない箇所があるので、順次設置に向けて対応したい。				
呉服小学校花いっぱい運動支援事業	180	補助金 180	地域と学校と一緒に実施する「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動の支援を行う。	地域と学校が一緒になって花を育てる活動を支援する。 満寿美町内にあるブランターの手入れ	「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動を支援する。 満寿美町内に緑が増えた	呉服小学校と地域が一緒になって花を育てるプロジェクトに参加し、子ども達が花を育てる喜びを感じ、感性豊かな心を育む事ができた。 地元の方々に好評を得た	感性豊かな子ども達を育てていく事業にも、今後とも積極的に対応していきたい。				
グラウンドゴルフ実施事業	90	補助金 90	高齢者と若者が一緒にグラウンドゴルフを行い、スポーツを通じて地域コミュニケーションを図る。	グラウンドゴルフの普及とスポーツを通じて地域のコミュニケーションを図る。	担当するメンバーが高齢のため交代したので準備段階	大会開催に向けて準備が進んだ	今後の広報活動や運営の方向性に検討の余地あり。				
キッズランド支援事業	30	補助金 30	呉服小学校で行われている「キッズランド」で使用する用品を購入し、子育て支援を推進する。	地域内の呉服小学校のキッズクラブに遊具備品を整備し、子育て支援を推進する。 要望が市民からあった。	地域内の呉服小学校のキッズクラブに遊具備品を整備することにより、子供たちの環境が改善した。	子育て世代の市民は日々負担増であるが、少しでも安心安全の助けになっているので大いに歓迎されている。	今後も支援していく。				
計	7,355		事業提案限度額 7,675千円	次年度繰越金額 320千円							

石橋地域コミュニティ推進協議会

事業名	提案額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目（目）
		説明									
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								コミュニティ推進課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	585	電気使用料 24 機器借上料 561	安全で安心な暮らしの実現に向け設置した防犯カメラの維持管理を行う。	交差点等の一部が死角になり、安全面に難あり、及び、不審者/犯罪者の逃走経路となるのでは等の指摘があり、継続を要望。	設置箇所も増え、安全で安心な暮らしが出来る。又、第三の目（者）による長期休暇（夏休み/大型連休）等の不在期間中の見守りが可能となる為、安心感あり。	設置箇所が増えたことによる各犯罪抑止効果ありと判断します。…継続	リースのような、安価な設設で、管理費の低減を図る。 又、家庭用防犯装置費用支援/援助策を提案し、各家庭への防犯装置設置希望者を募り、自らの防犯意識向上を促進させ、地域一丸となった防犯対策を実施する。 又、他地域（行政）が取り組んでいるドローン等（ドローンに替わる代替品…模索中）を活用した防災/防犯体制及び地区放送（全戸への緊急避難速報/警報）他携帯を活用した見守りも再度提案/検討し維持管理（費用/資格免許/教育含め）の促進。…継続	各部会でまとめられたものを、役員会で決定する。	事業を通して安全で安心なまちづくりに貢献されているものと評価。運営面においても、部会制がしっかりと機能しており一部に負担が集中することなく、急な欠員にも協力して事業執行できる体制が構築されていると認識。	継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む。	危機管理課 自治振興費
地域行事等活動促進事業	400	行事報償金 400	納涼大会等を実施する地域団体に電気設備設置及び活動運営を支援して、コミュニティ活動の充実を図る。	納涼大会は地域にとって大切な意義のある事業で地域の人々の重要なコミュニケーションの場である。	年々、電気設備及び活動運営が高騰し支援することにより多少の苦労は軽減されている。	電気設備等の支援をすることにより、ますます大勢の人々が集まり楽しめることが出来ていると思う。	年々、種々雑多な物が値上がりし、来年度はもう少し援助を増やすべきと思う。			納涼大会は石橋地域にとって非常に大切で大変盛り上がるイベントであると認識している。その中で電気設備費用は必要不可欠なもの。値上げに対しては引き続き情勢を注視しつつ検討していただきたい。	シティプロモーション課 自治振興費
道路安全対策事業	350	修繕料 350	歩行者が安心して通行できるよう、車のスピード抑制シートの設置を行う（呉羽の里記念碑通り）。	呉羽の里地域内において、記念碑通りにおいては、交通量が多く歩行者の安全を確保する必要があった。	歩行者が安心して通行できるように車のスピードが緩和させる効果について、今後とも確認してゆく必要がある。	シート設置後は、車からの眺めは、何かがあると確認でき、アクセルから足を上げる感じになりスピードが出ないと感じられる。	現在1箇所施工したが、1箇所では瞬時に通過してしまい何があったかわからないので、複数箇所の施工を実施し効果を上げる必要がある。			路面標示の設置により、通行の安全性が向上した。	土木管理課 道路維持費
コミュニティ倉庫設置事業	848	修繕料 848	地域行事備品の保管倉庫を石橋小学校敷地内に設置する。	不要になったパイプ椅子等を屋外での地域行事に使用のための保管場所に困っていた。	会館や他の倉庫に預かってもらっている備品を1か所に集めることができた。	どこに何が収納しているのかわかり、手伝う人々が作業しやすくなった。	学校や他の団体に収納させてもらっている備品は、できれば1か所に集めたいが今の倉庫では手狭である。			大容量の倉庫を整備することで、備品を1か所で管理でき、利便性の向上に繋がった。	教育総務課 学校管理費
石小吹奏楽部支援事業	1,730	校用器具費1,730	地域イベント等でも活躍する石橋小学校吹奏楽部の楽器購入を支援する。	石橋小学校吹奏楽部が、老朽化した楽器や借りてきた楽器で練習をしていた。前年全国大会に出場したことにより入部者が増え、楽器が足らなくなっていた。	輝きのある楽器で演奏すると部員達の練習に向かう姿勢や気があふれていた。	不足していた楽器を買い足したことにより、全国大会では素晴らしい金賞という結果を残してくれた。	全国大会に出場したことにより4年生の部員がたくさん入部し、ますます楽器の数が足らなくなっている。来年度も応援する可能性が出てきた。			使用可能な楽器の一層の充実により、児童の演奏技術の向上に繋がった。	教育総務課 学校管理費
市民レクリエーション大会事業	250	行事報償金 250	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の向上とコミュニティ活動の充実に努める。	校区の48年続いている事業で、大勢の地域の子ども供連や人々が楽しみにしており、この事業の大切さを痛感している。	この運動会を実施するところにより地域の人々がお互いにコミュニケーションを図り、近隣の人々と言葉を交わし顔見知りになる。	地域の人々が顔見知りになり言葉を交わすことで、よりお互いにコミュニケーションを図り地域活性の一助となる。	これからますます皆が楽しみ喜ばれる大会とするため、この会の充実を図るために援助を必要とする。			地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民同士の交流を図ることができた。	社会教育課 社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	441	補助金 441	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸配布する。	コミュニティ各部会が行う事業や地域住民の関心のある課題を周知することで、コミュニティの存在と役割を知ってもらう事業。	年間2回のコミュニティ紙の発行事業で、旭丘、井口堂及び石橋における石橋地域コミュニティの活動内容と地域性を広く伝達できた。	地域ボランティアの活動、小中学校と地域のつながり、石橋コミュニティ推進協議会の活動、等を広く周知することが出来た。	市の施策に沿った事業の状況、多世代交流拠点建設の進捗状況、共同利用施設、等の記事を抜きたい。			記事ごとに文責を示しているのが特徴的。防災意識を高揚させる記事やイベント情報が分かりやすく掲載されている。	広報広聴課 自治振興費
避難行動要支援者対策事業	324	補助金 324	石橋小学校区の要支援者のうち、要支援に同意された家庭に対し、定期的に安否確認を行い、非常時には避難誘導に努める。	地区住民の中には、支援を要していてもなかなか行動にできず、なにか大きな災害時も現況確認がしづらい状況であった	回数を重ねるたびに、要支援者とも顔なじみになり、近況を伝えてもらえるようになってきた	現況調査の継続により、要支援者への見守りと不安や疑問等に委員ができる範囲で対応をしている	訪問時に、要支援者から、災害時の避難について要望や質問を受けるが、各委員どこまで要支援者の希望を聞くかと負担に思いうケースがある。この事業では、委員はあくまで要支援者の現状を計画書に記入し行政へ提出し、災害時に要支援者の安否が確認できるようにする手助けであることを、委員が理解し、重荷に感じないことを検討していく			協議会を立上げ、事業を実施していただいている功績を非常に大きく評価し、継続的な事業の実施を行うことで大規模災害が発生した際の現況確認等に繋がることに期待している。	危機管理課 自治振興費
地域防災体制強化等事業	485	補助金 485	自主防災組織の体制強化を図るため、防災倉庫に防災備品を整備する。また、防災訓練を関係各所の協力のもと実施する。	恵まれた環境下により、緊急時に誰が何をどうするべきなのか知識及び経験が不足しているため、緊急時の対応が取れない（知らない）、又、有事の場合の避難及び避難所での対応方法（わからない）等についての知識が無い。	緊急時の対応（訓練ではあるが）体験及び各種（新）知識の向上が図れた。 知らないが知った、わからないがわかったへ変化した。 又、今回は起震車による地震体験も出来たので、良い経験が出来た。 ・総勢約350名の参加 ・炊出し訓練、試食実施 ・釜石の奇跡ビデオ鑑賞、起震車による地震体験、他各種訓練実施	地域の住民、学校、施設他及び行政の協力の基、連携を取りながら訓練が出来た。 参加者各自の経験となり記憶の片隅にでも残れば、いざという時の助けになると期待する。 同じことの繰り返しではあるが、継続は力なりを念頭に継続実施は必須。	各種の災害時（発生時間）に即対応が出来るか、訓練内容（夜間含め）を変えつつ継続実施する。学校の設備に頼らず、公園等にて何も無い場所等でーから炊き出し等が可能かやってみる価値あり。又、傷の手当て、身近にある品物を応用し、簡単に出来る方法（サビバル）等も織り込んでの実施をしたい。 今回は実際に体育館での素泊まりも実施計画に追加を希望する。			小学生、中学生、地域住民が合同で防災訓練を実施したことで、防災意識の向上に繋がったとともに共助の推進に大きく貢献している。また、防災備蓄品の購入を行い防災体制強化に取り組んでいる。	危機管理課 自治振興費
地域内会館備品運営事業	470	補助金 470	井口堂北会館に整備した備品の運用を行う。	印刷機設置以前は各ボランティア団体は各自、コンビニ等でコピー印刷し、時間的にも費用もかなりの負担であった	設置以後は各団体がレジメ、チラシ等印刷する事が出来、非常に便利になり余裕が出来た。 会館備品にしても必要な物を購入することが可能になり、便利になった。	印刷する費用、時間が軽減出来、多いに助かった。特に多量のチラシ等印刷の場合、コンビニ等では他の人の迷惑になり、それがなくなり仕事がしやすくなった。	井口堂北会館の二階ロビーに設置しているが、音がひびいたり、場所がせまく作業がしにくい。他の部屋で会議等をしている場合も多々あり、迷惑をかけているので設置する部屋を作りたい			コピー機の設置場所については、引き続き検討を求めるもの。	コミュニティ推進課 自治振興費
地域活動支援事業	40	補助金 40	地域の行事の備品運搬等の支援を行う。	石橋校区納涼大会、住民運動会、三世代交流事業の準備、後片付けに個人所有の軽トラックを借りて使用していた。	レンタカーを使用して準備、後片付けを行った。	レンタカーを使用することで、使用する時間が自由になり、万一事故が起こった際も保険が必ず使えるので安心	今年度も個人所有の車を、所有者自身の運転により使用している車もあるが、それがなくなると今後金額が増える予想される。			今後も一部のメンバーに負担が集中しないよう調整いただきたいながら、イベントの円滑な運営に寄与いただきたい。	コミュニティ推進課 自治振興費
リサイクル活動事業	30	補助金 30	ペットボトルキャップの回収リサイクルを行う。資源の有効利用を図ると同時に住民の意識を高める。	一般のゴミとして捨てられていたキャップ（ペットボトル）であった。	地域内設置の回収ボックスに入れる日常風景が見られる。	集めたキャップが、道・公園のプランターになってもどって来ていることに気付いている人が増えていると感じる。	回収活動に加わってくださる地域住民の協力を呼びかける。交流部会以外の型への協力参加をどのようにしていくかということ話を合っていくきたい。			リサイクルの推進と市民への啓発が効果的に実現できていると認識。今後のリサイクル品の拡充にも期待したい。	環境政策課 自治振興費
交通安全モラル啓発事業	49	補助金 49	車・人・自転車の事故減少及びマナー向上のため、交通安全モラル教室を開催する。	道交法改正となったものの、いまだに、ながら（スマホ操作他）運転が見受けられ、いまだに守られていない。 一旦停止無視/スピードの出し過ぎ/無灯火/等も含め、注意喚起及び取締りが必要。 また、ヘルメットの着用も継続。	本年度もスケジュール他、段取り／調整出来る、自転車安全運転講習会の開催は中止。 道交法改正となり、改正内容をわかり易く集約したチラシを作成／掲示し注意喚起とした。	幾分かしながら（スマホ操作他）運転が減少した気はするが、依然目立つ。 ルールを守るべく、立哨／チラシ等にて現場にて注意する必要がある。 事故が起きる前に／起こす前に。	課題はルールの周知徹底。 癖／習慣／軽視しすぎ等、自転車も車両（車）であることを認識し、軽く考えず、ルールを守るべく、立哨／チラシ等にて現場にて注意する必要がある。 事故が起きる前に／起こす前に。			事業未実施により未評価	交通道路課 自治振興費
地域美化整備事業	200	補助金 200	花や緑にあふれた「美しいまちづくり」を目指し、花を育てて、保育所、学校、各施設にプランターの花を贈呈する。	継続して地域の街路や公園に花をうえ、美しい街づくりを行っている。	プランターに花を植えていただくための花を配布し、地域の皆さんに心安らぐ空間を作った。	地域の皆さんに心安らぐ場所づくりになった。地域の皆さんの環境に対するモラル向上につながった。	植栽した花を長期にわたって維持することが難しいので、花を選定するときに、注意する必要がある。また、植栽後の花の管理を怠らないことが必要である。			各施設における緑化を推進し、環境や緑化に対する意識の向上に寄与している。	みどり農政課 自治振興費

三世代交流事業	350	補助金	350	異学年交流により上級生は下級生をいたわり、下級生は上級生を慕い敬う人間関係を幼少期から育成する。	コロナ発生後、縮小して開催していたこの会もいろんな行事が中止となるなか、子供たちも大人たちも心躍るような楽しみがなくなり近隣や地域の人々との繋がりが薄くなっていた。	今年度も子供会と地域コミュニティ地域交流部が中心となり地域福祉、民生、エイフ、スポーツ振興会等が協働して石小校庭にて模擬店やゲームコーナー等で楽しんだ。	石小吹奏楽部、石中吹奏楽部等のアトラクションを楽しみ普段接することのない人達が共に一つの事業を成し得る為、協力し合いながら汗を流し最後には子供たちの喜びや歓喜を聞き達成感を得て交流することの大切さを知った。	毎年9月に開催していたが、今年は11月に開催せざるを得なくなり日没が早く夕方ではなく昼間に開催するところを考える必要がある。				イベントの準備、開催を通じて、地域住民同士のつながりづくりに寄与することができた。	地域教育課 自治振興費
計	6,652			事業提案限度額	9,589千円	次年度繰越金額	2,937千円						

五月丘地域コミュニティ推進協議会

事業名	提案額（千円） 説明		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目（目）
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								コミュニティ推進課 自治振興費
防犯カメラ新規設置事業	57	電気使用料 2 機器借上料 52 電柱等共架料 3	安全で安心な暮らしの実現に向け、街頭犯罪件数のさらなる減少を図るため、防犯カメラを設置する。	校区内に24ヶ所の防犯カメラが設置されていた。	新たに1ヶ所の防犯カメラを設置し、全25か所となった。	防犯カメラは犯罪被害の未然防止や犯罪の予防の有用性が認められている。地域の安全で安心な暮らしの実現を目指すために有効と考える。	住民から交通事故の映像が写っていないか開示を求められ、応じないケースがあった。設置を増やしてほしいとの地域ニーズはあるが、映像の開示について、運用に課題があると考ええる。	各部会でまとめられたものを、役員会で決定する。	SNSの活用など新たな事業にも取り組むつつ、一方で事業を廃止するなど、スクラップアンドビルドの姿勢で毎年度事業の見直しを行っていただいている点を評価。ボランティア報酬については、その適切性及び必要性について慎重な判断をお願いするところ。	地域防犯のため、積極的に防犯カメラを設置いただいている点を評価するとともに、費用対効果を勘案した管理運用を望む。	危機管理課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	864	電気使用料 34 機器借上料 824 電柱等共架料 6	防犯カメラの維持管理を行う。	令和2年度以降設置の4台の防犯カメラを管理している。	新たに1台増えて、全5台となった。	—	特になし。			継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む。	危機管理課 自治振興費
緊急通報装置管理事業	1	電気使用料 1	緊急通報装置の電気代を賄う。	継続して緊急通報装置を管理している。	—	小学校や中学校への主要な通学路にあり、安心感があるとともに犯罪の抑止効果が期待できる。	いたずら防止や解除の仕方など、公園利用者や近隣マンション住民への周知が不十分であったために、近隣のマンション住民に注意事項説明の機会をつくった。今後もこうした機会を作ることを継続していくが必要である。			緊急通報装置の運用が、今後、犯罪抑制に繋がることを期待している。	危機管理課 自治振興費
地域コミュニティ推進協議会拠点管理運営事業	920	機器借上料 73 パフォーマンス料 91 インターネット使用料 114 補助金 642	地域コミュニティ推進協議会の事務所と、会員・地域住民が気軽に集える拠点の運営を行う。	2019年8月に本協議会事務所を開設した。さらに2020年9月、本協議会事務所を、「五月丘まちづくりプラザ」（略称：まちプラ）として地域に開いた。	まちプラは、地域住民が自由に立ち寄れるサロンとして、地域情報を掲示するまちの情報センターとして、また地域に関するご意見や相談事などを直接伝えることのできる相談所としての機能を有する。	事務所としての機能を発揮しているだけでなく、「五月丘まちづくりプラザ（通称まちプラ）」として、地域に開いている。開設して5年目となり、住民の貴重な声を直接聞くことができ、日常の身近な情報が寄せられている。	共同利用施設五月丘会館内にあるため、閉館日に入館できず、本事務所として使用できなくなり、不便である。その他、複合機の更新が必要。地域の方の訪問が少なく、本来の目的であるまちの相談やまちの声を拾うことが十分達成できていない。住民への周知も含めて、まちプラの活用方法の検討が必要である。			コミュニティ機能の維持に寄与しているものと認識。引き続き適切な運営をお願いするところ。	コミュニティ推進課 自治振興費
コミュニティベンチ設置事業①	462	修繕料 462	高低差のある地域内の公園において、階段の踊り場にベンチを整備し、市民の休息と憩いの場をつくる。（茶田山公園・五月丘緑地）	五月丘地域内の公園は平地の公園が少なく、道路よりも高い位置にあり、階段でアプローチする必要がある。公園を毎日の散歩ルートとして利用する住民も多く、階段の上り下りで休息出来るベンチが欲しいという要望を五月丘一丁目自治会さんから受けた。	住民の散歩ルートの中に休息スペースを設けることで、より散歩がしやすくなった。	住民の高齢化が進む中、本協議会では高齢者も元気に暮らせるまちを目指し、高齢者の健康増進に取り組んでいる。公園を利用しやすく、人との出会いや憩いの場所として活用されることが期待できる。	維持管理しやすい材料を選択したが、今後の使われ方に注意が必要。			休憩施設の設置により、憩いの場、集合の場として公園利用促進に寄与した。	みどり農政課 公園費
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。地域コミュニティ意識の高揚に努める。	校区スポーツ振興会主催の大会を支援する。開催時間を短縮し、午前のみ実施。接触型の協議を避けるなど感染対策に工夫を凝らしながら実施。	令和5年度と同様に午前のみの実施とした。大縄跳びや綱引きなど、コロナ前の種目を復活させ、工夫しながら実施することができた。	子ども達から大人まで楽しく競技に参加できた大会となった。	五月丘は少子化が進んでおり、子どもを含めた関係者の参加者が減少している。ターゲットを見直す時期にあると考える。			地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民同士の交流を図ることができた。	社会教育課 社会体育振興費
コミュニティベンチ設置事業②	231	修繕料 231	地域住民の通路としても活用されている歴史民俗資料館敷地内の階段の踊り場にベンチを整備し、休息と憩いの場をつくる。	五月丘地域内の公園は平地の公園が少なく、道路よりも高い位置にあり、階段でアプローチする必要がある。公園を毎日の散歩ルートとして利用する住民も多く、階段の上り下りで休息出来るベンチが欲しいという要望を五月丘一丁目自治会さんから受けた。	住民の散歩ルートの中に休息スペースを設けることで、より散歩がしやすくなった。	住民の高齢化が進む中、本協議会では高齢者も元気に暮らせるまちを目指し、高齢者の健康増進に取り組んでいる。公園を利用しやすく、人との出会いや憩いの場所として活用されることが期待できる。	上部緑地の高木が倒木しないように監視と剪定が必要である。			五月丘緑地や歴史民俗資料館の利用者に利用いただけており、アクセスする方への配慮向上に一定寄与している。	歴史民俗資料館 資料館費
地域コミュニティ紙等発行事業	185	補助金 185	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	本協議会の活動内容を地域住民に周知するとともに、地域住民に必要な情報を発信するために、年に2回、まちづくり通信（広報誌）を発行し、全戸配布をしている。	上記の通り。	本協議会の活動や地域での取り組みについて情報発信を行うとともに、地域で活動する他団体を紹介した。広報誌を見て、会員の募集や有償ボランティア募集への申し込みもあり、今後も地域住民に関心のある内容を検討していきたい。	令和5年度から校正から完成まで外部委託している。しかし原稿を書いたり、写真を選んだり、委託先と調整できるメンバーに限られている。広報誌を作成できる人材の確保が課題である。			落ち着いた色合いとレイアウトで、写真も多く使用されていて、活動内容が分かりやすいように工夫されている。	広報広聴課 自治振興費
地域情報発信管理事業	61	補助金 61	協議会の活動状況やイベント情報を地域住民に発信する。	年に2回、まちづくり通信（広報誌）を発行し、全戸配布をしていた。	LINEにより毎月、何回でも情報発信できる。イベントの中止や雨天時の別メニューでの開催通知など、今日明日の情報をタイミングよく発信できる。またイベントへの参加応募やボランティア募集などにも活用できる。	LINEを通じて登録者（市民）が本協議会の活動やイベントに参加することができ、イベントに参加した感想や意見・要望などを直接伝えることができる。	LINEの登録者数が伸び悩んでいる。これは発信頻度が原因と考える。しかし度重なる発信はメンバーの負担になり、悩みどころである。			イベントの開催についてSNSの特性を生かしてタイムリーな情報発信をしている。	広報広聴課 自治振興費
地域防災訓練強化事業	104	補助金 104	防災意識向上のため、自主防災組織と合同で、またこの組織にも属さない人も一緒に、防災訓練を実施する。	五月丘一丁目自治会自主防災・防犯隊と五月丘五丁目自主防災団と合同で防災訓練を実施。本協議会は自主防災組織のない地域住民の受け皿となる。	令和6年度から春と秋の年2回開催とした。秋は自然災害が起きた後のことを想定した模擬訓練として、給水訓練と炊き出し訓練を行った。秋は春以上の参加人数となり、住民の防災への感心の高まりを感じた。	災害への備え、防災についての知識、そして災害に強いまちを目指すし、地域住民が共助できる関係構築の重要性を学んだ。	本校区は自治会の加入率が低く、自主防災組織がない地域に住む住民が多いことが特徴で、今後も本協議会が、災害に強いまちづくりに向けて地域の共助的役割を果たせるように活動していきたい。			災害時における地域の防災力向上に期待するとともに、幅広い年齢層の地域住民を巻き込んだ活動は、共助の推進に大きく貢献している。	危機管理課 自治振興費
地域防災体制強化等事業	162	補助金 162	万が一の事態に備え、防災備品を備蓄する。	指定一般避難所となる五月丘小学校に必要な防災備品をリストアップし、順次、購入している。	炊き出しのための防災食調理備品と防災テントを購入した。	防災に対する事前の備えを進めている。	今後も本協議会所有の防災備品を点検し、交換が必要な備品や不足している備品を整備していく。			災害時に備えた防災資材の補充を評価し、今後の有効性に期待している。	危機管理課 自治振興費
盆踊り大会支援事業	250	補助金 250	地域団体が実施する、盆踊り大会の運営を支援する。	校区スポーツ振興会主催の本大会を支援する。	天候にも恵まれてたくさんの方が来場され、盛大なお祭りとなった。	本校区は地域イベントの少ない地域である。本大会は子どもからお年寄りまで楽しめる、地域にとって貴重なおまつりである。今後も支援を継続していく。	スタッフの高齢化と暑さの影響もあり、設営が大変である。栗野地域コミュニティさんから「やぐら」をお借りするなど、設営の省力化を図った。今後も他地域とも連携した対策が必要と考える。			地域の皆様が楽しめるイベントとなっており、地域内の交流において貴重な機会になったものと認識。やぐらを借りるなど設営の工夫が見られる点も大変素晴らしい点であると考ええる。今後も他地域とも連携してよりコミュニティの醸成に寄与したイベントを開催していただきたい。	シティブロモーション課 自治振興費
五月丘フェスタ開催事業	400	補助金 400	盆踊り、市民レクリエーションに次ぐ地域住民の交流・ふれあいの場としてフェスタを開催し、恒例行事として定着させる。	毎年、五月丘小学校で実施。内容はフリーマーケット、模擬店、スポーツゲーム、キッズコーナー、ステージ。	今年度も地区福祉委員会さんが行うフードライブに協力した。	本事業は、子どもからお年寄りまで幅広い世代が楽しめるイベントで、地域住民が交流できる良い機会となっている。運営には地域で活動するほとんどの団体の協力を得て実施する、地域連携事業である。また地域の学校（五月丘小学校、渋谷中学校、渋谷高等学校）と連携していることも重要である。	設営したテントが強風にあって飛んで、子どもに当たった。大きな怪我にはならなかったもののあってはならないことで、テントの風対策や当日の運営体制など、見直しが必要である。			幅広い世代が楽しめるイベントであると認識。地域内の団体にも協力を得て実施されている点も非常に素晴らしいポイントであると考ええる。なお、事故だけは決して起こらないよう、これまで以上に十分な対策を取って、安全・安心でかつコミュニティ醸成に寄与したイベントとしていただきたい。	シティブロモーション課 自治振興費
コミュニティサロン設置事業	310	補助金 310	地域の人々に情報交換や交流の活動場所としてコミュニティサロンを月2回設置する。	毎月2回、コミュニティカフェ五月丘（C.C.S.）を開催している。	同上（毎月20～30名程度参加）	2012年度から本事業を始めて12年となる。地域に認知され、地域の憩いのコミュニティカフェとして定着している。	長く続けていると地域の利用者も高齢化し、お亡くなりになる方も年々増えている。同様にスタッフも高齢化し、スタッフの減少につながっている。新しいお客さんをお呼び込みし、展開が必要である。			マンネリ化しないよう様々な工夫を凝らしながら事業を継続いただいているものと認識。新しい利用者を取り込めるよう、積極的な広報活動を期待するところ。	コミュニティ推進課 自治振興費

高齢者等の居場所づくり事業	226	補助金	226	独居老人の安否確認、認知症等の予防、高齢者が生きがいを持って生活できるよう支援する場を提供する。	毎月第3日曜日に、「おしゃべり広場」を開催している。	同上(毎回30～40名程度参加)	12月開催のクリスマス会には、毎年多くの地域の方が来場される。今年度は渋谷高等学校アコースティック音楽部の演奏会を始め、サンタクロース登場の他、ビンゴゲームなど、会場は大いに盛り上がり、楽しいクリスマス会となった。本協議会では地域の学校との連携に力を入れている。地域の学校に通う若い力を含めて、高齢化する地域を活気づけたいと考えている。	スタッフの人員確保。本事業の立ち上げ時には、民生委員さんと地区福祉委員会さんの協力を得ていたが、協力者の高齢化に伴い、この協力を得にくくなっている。		地域の学校との連携が高齢者の生きがいづくりに貢献し、地域全体の交流と活性化を促進している役割となっている。	高齢・福祉総務課 自治振興費
地域介護者支援事業	64	補助金	64	地域の高齢化が進む中、介護に不慣れな男性の介護の担い手が孤立しないよう、介護に関する基本知識の座学及び調理実習を行い、同じ境遇にある人同士の交流を図る。	五月丘地域は高齢化が進んでおり、介護に不安を抱える方が増えている。そこで介護に関する知識や心得を学ぶ機会を提供するために、昨年度から介護教室を開催している。	今年度は認知症について学んだ（約30名参加）。講師は認定ケアマネージャー、言語聴覚士、地域包括支援センターの職員にお願いした。	参加者アンケートの結果から満足度が高いことがわかった。	地域のためには継続すべきという声があるものの、内容が専門的で本協議会メンバーにとって開催までの調整が負担であるという理由で、来年度は実施しないことが決定した。また、本協議会ではなく、本来、他団体がすべきではないのかという意見も強くあったことを報告する。		認知症の方やその家族が住み慣れた環境で自分らしく暮らし続けるためには、認知症に対する地域の理解を深めていくことが重要であり、意義のある取組であると認識している。今回は継続実施しないことを決定されたが、今後、介護等に関する地域での取組が再開されることを期待している。	地域支援課 自治振興費
子育て支援事業	38	補助金	38	未就学児を子育て中の親子と地域の人たちが集い、安心して子育てできる環境づくりを目指す。	五月丘に暮らす3歳以下の子どもをもつお母さんが親子で参加する「ほっとサロン」をNPO法人ママの働き方応援隊、ひだまり助産院の協力を得て開催。	令和5年から地区福祉委員会さんの「子育てサロン」と合同で実施している。	地区福祉委員会さんに子ども達の遊びやお楽しみタイムなどを担当していただいたおかげで、お母さん達が「ほっと」できる時間となり、心を元気にすることができた。子育てやお母さん同士の情報交換・交流の場となった。	五月丘地域は少子化が進んでおり、五月丘に暮らす3歳以下の子どもをもつお母さんを探すことが非常に難しい。対象を広げるなど見直しが必要と考える。		子育ての情報交換や母子の交流の場となっているものと認識。新規の方の参加を促すような取組を期待。	子育て支援課 自治振興費
交通安全看板設置事業	49	補助金	49	飛び出し危険個所に設置している交通安全看板について、老朽化しているものを取り替える。	通学路の飛び出し危険個所に設置している「飛び出しぼうや」が老朽化していた。	老朽化していた10箇所の看板を付け替えた。	住民に危険個所を知らせるとともに、五月丘が安全安心なまちづくりに取り組んでいることを周知する効果がある。	今回単年度事業であるが、今後も通学路等の交通安全対策には目を光らせていく。		老朽化した看板（飛び出し坊や）の更新により、危険個所であることの再認識が期待できる。	交通道路課 自治振興費
花プロジェクト事業	180	補助金	180	小・中学校関係者ととともに協働で地域の人々が花を育て、花を通じて人々の心を豊かにする。	五月丘小学校の授業の一環として、また渋谷中学校のクラブ活動の一環として、年2回実施。	(6月)小学校330株、中学校220株、花植えを実施。 (10月)小学校1,000株、中学校800株、ブラグ苗移植を実施。 (12月)小学校及び中学校で出荷式を実施。校区内の自治会やしぶたに学園、池田五月山教会幼稚園、五月丘こども園、くすのき学園、五月丘郵便局、セブンイレブン五月丘店に花を配った。	学校で育てた花を地域の公共の場に植えて、街並みに花を添える。学校と地域が連携して緑豊かなまちづくりに取り組んでいる。	前提として学校で子ども達が花を育てることになっているが、実態としては植えた後の世話を学校が行っており、子ども達は関与していない。出荷式もイベント化しており、小学校が本事業の主旨を理解していないことにも問題はがあるが、事業の継続を見直す時期に来ている。		引き続き地域住民と教育現場が連携し、花に溢れた街づくりと子供の健全な育成に役立っている。	みどり農政課 自治振興費
イベント運営事業	292	補助金	292	地域交流や地域活性などに重点を置き、地域住民参加のイベントを行う。	グランドゴルフ(年2回)、里山教室(年2回)、五月山ハイキング、卓球教室を開催。	グランドゴルフ(6月(雨天中止)、11月(45名参加)、3月(43名参加))、里山教室(6月(30名参加)、11月(30名参加))、五月山ハイキング(1月(80名参加))、卓球教室(2月(43名参加))を開催。五月山ハイキングと卓球教室は、校区スポーツ振興会主催のイベントでこれを支援。	グラウンドゴルフ大会は、スポーツを通じた地域交流の機会としている。里山教室は、五月山で間伐作業を体験し、子ども達には五月山の自然や里山の大切さを伝えた。	6月開催の里山教室では、雨天のため雨プログラムでの開催となった。梅雨の時期でもあり、開催時期の検討が必要である。		地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民同士の交流を図ることができた。用具も充実しており、引き続き実施されることを期待する。	社会教育課 自治振興費
計		5,156		事業提案限度額	10,864千円	次年度繰越金額	5,708千円				

石橋南地域コミュニティ推進協議会

事業名	提案額(千円) 説明		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金	100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。							コミュニティ推進課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	1,147	電気使用料 機器借上料 電柱等共架料 補助金	39 1,060 15 33	校区に設置した防犯カメラの維持管理を行う。引き続き地域内の犯罪の抑止と住民の安全・安心な生活環境を確保する。	当地区には現在6台の防犯カメラを設置 防犯カメラが「目立たないので」犯罪防止の抑止力の効果が薄い。	カメラ設置に係る維持管理の為、定期点検を実施 正確な情報提供に努めた アルミプレート製の防犯カメラステッカーを製作	地域内犯罪の抑止及び安心な生活環境を確保した。 必要に応じ、カメラの開示を実施した。 地域内犯罪の抑止力アップにつながった。	各部会（ブロック別）でまとめられたものを協議会で決定する。	地域ごとの異なる特色を踏まえ、ブロック制を取り、ハード整備を中心にそれぞれの地域からの要望をまちづくりに繋げていただいていると評価。 一方で、協議会役員のなり手不足が深刻化しているものと認識。持続可能な組織であるためにも、若い世代が協議会の運営に積極的に関われる体制づくりをお願いするところ。	地域防犯のため、積極的に防犯カメラを設置いただいている点を評価するとともに、費用対効果を勘案した管理運用を望む。 会館の適切な維持管理に寄与。利用者の増加につながることを期待。 会館の適切な維持管理に寄与。利用者の増加につながることを期待。 会館の利便性が向上したものと評価。引き続き適切な管理運営をお願いするところ。 会館の利便性が向上したものと評価。引き続き適切な管理運営をお願いするところ。 他の公共施設に先駆けの取り組みであり、利用者の利便性向上につながったものと認識。	危機管理課 自治振興費 コミュニティ推進課 地域集会所施設管理費
地域内会館清掃事業①	18	清掃委託料	18	地域内会館の清掃を行うことで、会館を清潔に保つ。（空港会館）	日常の軽易な清掃は実施している。	年一回の業者の作業の実施を委託した。	作業の併用により会館の美化は保っている。	引き続き実施していく			コミュニティ推進課 地域集会所施設管理費
地域内会館清掃事業②	119	清掃委託料	119	住み込みの管理人のいない地域内会館の清掃を行うことで、会館を清潔に保つ。（石橋会館）	石橋会館に住み込みの管理人がおらず、行き届いた清掃が難しい状況である。清潔に保つため定期的な清掃が必要である	年3回の業者の作業の実施を委託した。	会館の美化は保っている。	引き続き実施していく			コミュニティ推進課 地域集会所施設管理費
地域内会館備品整備事業①	550	庁用器具費	550	地域内会館（空港会館）の備品整備を行い、利便性を向上させる。	現存テーブルは老朽化で脚が不安定で危険。又キャスター無しなので移動が大変である。	10台の机を入れ替える	キャスター付きで会議室の机の移動がスムーズで安全且つ楽になった。	安定維持管理			コミュニティ推進課 地域集会所施設管理費
地域内会館備品整備事業②	495	庁用器具費	495	地域内会館（石橋会館）の備品整備を行い、利便性を向上させる。	・会議室黒板の老朽化2台及び壊れて修理不能1台 ・こども食堂の冷蔵庫1台あるが足りない。	ホワイトボード3台 冷蔵庫1台	会館の行事を支障なく催すことができた。	安定維持管理			コミュニティ推進課 地域集会所施設管理費
地域内会館設備改修事業①	1,852	修繕料	1,852	地域内会館の設備改修を行い、利便性を向上させる。（空港会館）	空港会館の蛍光灯が古く、本数も多いので交換する手間がかかり、なお電気代も高くなっている。	大会議室、通路36本をLED照明に変えた。	明るく、電気代も安く機器寿命も長くなった。	会館利便性の向上・維持管理			コミュニティ推進課 地域集会所施設管理費
地域内会館設備改修事業②	350	修繕料	350	地域内会館の設備改修を行い、利便性を向上させる。（石橋会館）	多目的トイレにおむつ交換台がなく、乳幼児対象の福祉団体の活動中に必要性があった。	横型おむつ台を設置	会館の行事を支障なく催すことができた。	安定維持管理			コミュニティ推進課 地域集会所施設管理費
地域掲示板設置事業	320	修繕料	320	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるため、掲示板を設置する。また、地域団体と共に使用出来るようにする。	石橋商店街に掲示板が少ない。	アルミ掲示板を設置	掲示板の利用により自治会の情報発信がより可能になり、地域団体とともに使用できるようになった。	維持管理、活用方法の向上			コミュニティ推進課 自治振興費
街路灯強化事業	52	電気使用料 修繕料	2 50	安全・安心なまちづくりの一環として防犯対策強化を目的に街路灯を整備する。	周辺に街路灯がなく、防犯上の問題が起こる可能性あり。	街路灯を1灯設置した。	安全安心のまちづくりの一環で防犯対策の強化ができた。	維持管理を継続。			土木管理課 交通対策費
道路安全対策事業①	145	修繕料	145	歩行者の安全を確保するため、見通しの悪い交差点にカーブミラーを設置する。	見通しの悪い交差点があり、危険。	電柱共架ミラーを1基設置した。	電柱共架ミラーの設置により歩行者の安全の確保がより可能となった。	維持管理を継続。			土木管理課 交通対策費
道路安全対策事業②	89	修繕料	89	衝突事故の危険性がある道路に停止を促す路面標示シートを設置し、運転手に注意を促し歩行者の安全を確保する。	衝突事故の危険性のある道路があり、危険。	路面標示シートを設置。	運転手に注意を促し歩行者の安全を確保した。	維持管理を継続。			土木管理課 道路維持費
交通安全対策事業	644	修繕料	644	石橋商店街に設置している自転車走行注意の横断幕が老朽化しているため、新調する。	石橋商店街内自転車乗り入れ等の横断幕の老朽化して、汚く、見えづらい。	商店街横断幕（ターポリン製）の入替設置工事	商店街内の安全喚起に努めた。	維持管理を継続。			交通道路課 交通対策費
公園整備事業	1,766	修繕料	1,766	子どもたちが安全で清潔に遊べるよう、石橋駅前公園内の砂場を改修し、メッシュフェンスを取り付ける。	石橋駅前公園内の砂場が老朽化し、尚且つ犬の糞などで汚く誰も遊ばず使用禁止状態になっていた。	砂場を改修し、周りにメッシュフェンスを取り付けた。	子供たちが安全で清潔に遊べる場に再生した。	維持管理を継続。			みどり農政課 公園費
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金	200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の向上に努める。	スポーツ振興を通して地区の事業として地域の親睦に役立っている事業	石橋南小学校にて開催	地域のコミュニケーションを図り、又スポーツ意識の向上、健康増進に努めた	継続			社会教育課 社会体育振興費
多世代交流支援事業	643	機器借上料	643	小学生と地域との交流の場づくりや高齢者の健康増進のため、ロボホンを導入する。	小学生と地域コミュニティとの交流（遊び、勉強、趣味、運動等）の場所があまりなく、地域活性に乏しい。	次世代学習ロボット（ロボホン）を導入	地域コミュニティの交流の場作りや高齢者の健康増進の一役になった。	維持管理を継続。			地域教育課 教育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	313	補助金	313	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	年間3回発行し、地区内全戸に配布した。	地域住民からの当会の活動状況の理解に寄与した。	継続。			広報広聴課 自治振興費
地域防災体制強化等事業	99	補助金	99	自主防災組織への資機材配備を充実させ、地域の防災体制の強化・推進を図る。（空港地域）	自主防災組織への資機材配備がまだ不十分で今後計画的に補充する必要がある。	トランシーバー2台、消火器5点他	防災機材の計画的な備え、補充による安心安全に寄与。	維持・管理の継続			危機管理課 自治振興費
地域行事等活動推進事業	165	補助金	165	地域で開催される行事等を主催する団体に対し、活動に係る支援を行う。	地域で行事を開催し、活動に係る支援を行うことにより地域活性化を図る。	地域で開催される行事等を主催する団体に対し、活動に係る支援を行うことにより、地域活性化した。	地域で開催される行事等を主催する団体に対し、活動に係る支援を行うことにより、地域が活性化した。	継続支援。			シティプロモーション課 自治振興費
地域内会館管理運営事業	190	補助金	190	地域内会館の管理運営を行い、会館利用者の利便性の向上を図る。	会館フリーWi-Fi設備・コピー機設置の継続	会館利用者の利便性の向上に寄与した。	会館利用者の利便性の向上に寄与した。	継続。			コミュニティ推進課 自治振興費

ごみ収集かご設置事業	63	補助金	63	ごみ収集車が進入できない地域における鳥獣対策として、ごみ収集かごを設置する。	ごみ収集車が入れない場所の住民はごみを取集車が通る付近まで各々持って行く現状。その結果管理ができず、カラスの被害に遭い周辺住民が困っていた。	ゴミ収集車が通る場所に専用のごみ収集かご設置	清潔でカラスの被害も無くなった。	継続管理。			ごみの排出場所が適切に管理されることで鳥獣によるごみの散乱被害が改善されたものと認識。	環境政策課 自治振興費
石橋南地域花いっぱい運動支援事業	242	補助金	242	石橋南小学校で花苗を育て、校庭や地域の公園に植え替えることで、まちの緑化を志すボランティアの育成や児童に命の大切さを伝える。	石橋南小学校で花苗を育て校庭や地域の公園に植え替えることでまちの緑化を志すボランティアの育成や地域住民参加によるまちの活性化、児童に命の大切さを伝える。（令和5年度からの引継ぎ）	夏用、秋用の花の苗を植えた。	引き続き地域住民からの活動状況の理解を得られまちの緑化に寄与した。	継続。			継続していくことで、緑化の意識も高まり、ボランティア精神の育成に繋がる。	みどり農政課 自治振興費
計		9,562		事業提案限度額 14,746千円	次年度繰越金額 5,184千円							

鉢塚・緑丘地区コミュニティ推進協議会

事業名	提案額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目（目）
		説明									
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								コミュニティ推進課 自治振興費
防犯カメラ新規設置事業	57	電気使用料 2 機器借上料 52 電柱等共架料 3	安全で安心な暮らしの実現に向け、街頭犯罪件数のさらなる減少を図るため、防犯カメラを設置する。	高校生に対する嫌がらせ事例が発生した。	安心して生活できる。	安心して生活できる。	防犯カメラがあることに安心せず、日頃より防犯に心がける。	各部会でまとめられたものを役員会で決定する。	新たに開設したSNSや、イベント告知に重点を置いたコミュニティ誌の活用がイベントの参加者増に繋がっているものと評価。事務や会計処理は適切に行われているものと認識しているが、協議会内でのルールが曖昧になってきている部分もあると聞いており、引き続き改善に向けて取り組んでいただきたいところ。	地域防犯のため、積極的に防犯カメラを設置いただいている点を評価するとともに、費用対効果を勘案した管理運用を望む。	危機管理課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	224	電気使用料 10 機器借上料 214	安全で安心な暮らしの実現に向け、街頭犯罪件数のさらなる減少を図るため設置した防犯カメラの維持管理を行う。	防犯カメラがあることで安心して生活ができる。	安心して生活できる。	安心して生活できる。	防犯カメラがあることで安心せず、防犯に心がける。			継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む。	危機管理課 自治振興費
地域内会館備品整備事業①	3,468	庁用器具費3,468	地域内会館の備品整備を行い、利便性を向上させる。（才尊会館）	机や椅子が老朽化していた。	持ち運び、移動が便利になった。	会館の準備、片付けがたいへん楽になった。	大切に扱う。			本事業によって、より利用しやすい施設になったものと認識。	総務課 財産管理費
地域内会館備品整備事業②	1,701	庁用器具費1,701	地域内会館の備品整備を行い、利便性を向上させる。（鉢塚会館）	机や椅子が老朽化していた。	持ち運び、移動が便利になった。	会館の準備、片付けがたいへん楽になった。	大切に扱う。			利用者のニーズに応じた備品更新が出来たものと評価。会館利用者の増加に寄与することに期待。	コミュニティ推進課 地域集会所施設管理費
コミュニティ倉庫設置事業	763	修繕料 763	地域行事備品の保管倉庫を鉢塚会館敷地内に設置する。	地域イベントで使用する机や椅子を保管するところが無かった。	1か所にまとめることができた。	倉庫にまとめることで、皆が取り出せる位置を理解し、戸惑うことがなくなった。	整理整頓。前方の草刈り。			備品がまとめて管理できることにより、利用者の利便性向上とともに、協議会としても管理がしやすくなったものと評価。保管備品の適切な管理をお願いするところ。	コミュニティ推進課 自治振興費
AED管理事業	365	消耗品費 13 器具費 352	地域内の各会館に設置したAEDについて、使用期限が切れる本体の更新を行うとともに、定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるよう維持管理を行う。	地域の安全安心のため、AEDの維持管理は欠かさない。	安心して使用できる。	安心して使用できる。	防止訓練などに参加を促し、AEDを操作できる人を増やさなければならない。			本体の更新を行い常に正常に使用できるよう管理している。共同利用施設にAEDを配置することは、多くの住民の安心感を得ることが出来るため今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていただきたい。	健康増進課 保健衛生総務費
市民レクリエーション大会事業	370	行事報償金 370	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。地域コミュニティ意識の高揚に努める。	スポーツ振興会や学校開放委員会が主となり開催している。	スポーツを通じて、健康の維持を図ることができる。	スポーツを通じて、健康の維持を図り地域とのつながりを持つことができる。	参加人数を増やす。			地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民同士の交流を図ることができた。	社会教育課 社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	240	補助金 240	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	年3回発行している。	配ってくれる方を得たことで、スムーズに発行できる。	同じ内容をSNSにも投稿することで、広く告知することができる。	しっかり校正する。タイミングの良い発行心がける。SNSの活用。多くの地域の情報を掲載。			内容が簡潔にまとめられているほか写真を大きく使うことや色使いがきれいであるところが良い。また、イベントの周知をSNSで月1回程度行っているのでも今後も継続して配信してほしい。	広報広聴課 自治振興費
地域防災体制強化等事業	150	補助金 150	自主防災組織の体制強化を図るため、備蓄品の充実を図る。また、防災訓練を関係各所の協力のもと実施する。	年1回行っている。	災害に対する備えを心がけるようにする。	広く参加者を募ることで効果も大きくなると思われる。	参加者を増やす。内容の見直し。			災害時における地域の防災力向上に期待するとともに、地域住民を巻き込んだ活動は、共助の推進に大きく貢献している。	危機管理課 自治振興費
地域イベント開催事業	748	補助金 748	花菖蒲まつりで移動動物園と野だての会を開催し、来園者に楽しんでもいただく。	菖蒲祭りの時に同時に行っている。	野点会場も動物園も盛況であった。	野点のスタッフも定着している。動物園は長い列ができている。	お客さんの誘導。			花菖蒲まつりの中で移動動物園と野立てを実施することで、コミュニティ醸成に寄与したイベントとなっているものと認識している。	シティプロモーション課 自治振興費
地域イベント備品整備事業	1,434	補助金 1,434	地域で開催されるイベント等に使用する備品を整備し、地域の活性化を図る。	地域イベントで使うテントが不足していた。	イベントの際、業者から借りることなくテントを活用できた。	気軽に住民が借りられ使用できる。	大事に扱う。			購入テントを地域で開催されるイベント等で使用することにより、地域の活性化を図ることができたと考える。	シティプロモーション課 自治振興費
オータムフェスティバル開催事業	200	補助金 200	緑丘小学校において校区全体の交流を目的としたフェスティバルを開催する。	お客さんを呼ぶ大きなインパクトが必要であった。	体育館でダンスフェスティバルを開催した。	午後からほとんどお客さんがいなかったが、午後からダンスフェスティバルを開催したことにより動員が増えた。	体育館内の照明。客席の配置。出演者の増。グランドの店舗数増。			地域の交流によるにぎわいがうまれるイベントであるものと考える。	シティプロモーション課 自治振興費
ふれあい落語会開催事業	339	補助金 339	本格的な落語を身近に鑑賞できる機会をつくるためのイベントを開催する。	前年より開催場所を鉢塚会館に変更した。	桂文我さんに引き続きお願いしている。	安定的に100名を超えるお客さんがいらっしゃる。	楽屋のこともあり、才尊会館3階では厳しい。鉢塚会館が使用できない状況で開催可能か不安。			リピーターだけでなく初めて参加された方を多く取り込んでいる。また、アンケートでは次年度も事業の継続を望む声が多く、満足度の高さが伺える。	人権・文化国際課 自治振興費
オペラ鑑賞会開催事業	750	補助金 750	わかりやすい日本語によるプロのオペラを鑑賞し、親と子、地域住民との交流を図る。	毎年芸術鑑賞会を行っている。	オペラシアターこんにゃく座による「ルドルフといっぱいあってな」の公演。	子供たちも食い入るように観ていた。体育館が即興のオペラハウスになった。	いろいろな本物の芸術に触れる時間を持ってもらいたい。			オペラを鑑賞する機会は貴重であり、子どもにとって音楽・芸術に興味をもつ機会となったものと思料。次回からアンケート結果や参加者数等の資料の添付をお願いしたい。	人権・文化国際課 自治振興費
高齢者等の居場所づくり事業	50	補助金 50	家族の健康や介護、自身の不安や悩みについて気軽にしゃべりる機会を設ける。	前年度より行っている。	令和6年9月、10月、令和7年1月、3月の計4回開催した。	家族の健康や介護、生活の不安などについて気軽に話し合った。	参加者を増やす。フォローできる題材を増やす。			安心して話せる場が提供され、不安の共有や介護支援に関する理解が深まる場を提供していただいている。	高齢・福祉総務課 自治振興費

ほそごう地域コミュニティ推進協議会（伏尾台地区）

事業名	提案額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課
		説明									科目（目）
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金100		協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。							コミュニティ推進課 自治振興費
安全パトロール実施事業	495	修繕料95 保険料46 自動車重量税9 補助金345	地域安全パトロールを実施し、地区内の安全・安心の向上を図る。	実施前は小学校の登校時に、主に民生委員等による見守りがあった。平成20年9月より実施し、当初小学校の登校日を中心に、H20年は、1回1時間、1日6回のパトロールからスタートし、H21年は、1日4回に組み直して実施した。 H24年は、小学校の曜日毎、学年毎の下校時刻に応じてスケジュールの見直しを行った。H25年度は、1回1時間、1日2～3回のパトロールを実施した。 H26年度は、登校予定日、小学校の曜日毎、学年毎の下校時刻の違いに応じて、より細かくパトロールスケジュールの見直しを行い、月曜日から金曜日の間、7時30分から1時間、15時50分から1時間、19時から1時間の1日3回のパトロールを実施した。 H27年度以降は、小中一貫校のほそごう学園に統合されたことにより、細河地区の中学生、小学生はスクールバスで登下校することになり、主に伏尾台地区の小・中学生の登下校を見守ることになった。 朝の登校時に定点立ちを主に行う挨拶運動、下校時に合わせた午後のアナウンスを行う走行によるパトロール、夜間アナウンスが可能な時間帯の走行によるパトロールを継続して行った。 H27年10月以降、コミュニティプラザを開設してからは、青パト車の駐車場をプラザの南側に設定でき、隊員のアクセスが良好になった。 H30年、大遊協から提供された青パト車が配備された。同時に、除隊の申し入れが多くなり、隊員補充が全く進まず、2台のパトロール車体制の構想が実現できていない。 R1年、隊員の高齢化が進み、80歳になったのを機に除隊の申し出が多くなった。R2年以降は、免許証なしだが、同乗でパトロールをお願いして隊員補充を行なっている。 事業開始時から使用している青パト車の整備に、予定外の故障が発生しており、整備費が嵩んだ。さらにR3年2月、3月と連続してバンクに見舞われたので、安全確保のため、タイヤ4本を交換した。 令和4年1月に、デイズのバッテリーが上がり、バッテリーを交換し、100Vチャージ器で定期的にバッテリーの充電点検を行うことにした。 巡回スケジュールは、日中は、ほそごう学園の開校日並びに登校・下校時間に合わせて行い、巡回のみならず定点パトロールと挨拶を実施し、また、夜間の巡回を併せて行うように計画した。安全パトロールは、通年、一回あたり1時間これを実施した。 巡回時には、バス通りのみならず、伏尾台の周辺地域ならびに公園を重点的にチェックするよう心がけた。 R4、5年度は昼間担当の数名の隊員が体調不良で除隊を申し出ており、昼間の乗務が激減した。補充のため、多数回の乗務をして頂く隊員に夫婦での乗務をお願いした。	巡回スケジュールは、日中は、ほそごう学園の開校日並びに登校・下校時間に合わせて行い、朝は二人乗務ができないため、定点パトロールで挨拶を実施した。また、昼間の出勤ができない日には、夜間の巡回を早めて行うように計画した。安全パトロールは、通年、一回当たり1時間これを実施した。 巡回時には、バス通りのみならず、伏尾台の周辺地域ならびに公園を重点的にチェックするよう心がけた。 R6年度も昼間担当の数名の隊員が体調不良で除隊を申し出ており、昼間の出勤がさらに激減した。	パトロールを継続して行った結果、空き巣等の防止に繋がりが、防犯カメラ事業との相乗効果も有り、毎年空き巣犯罪“0”を更新できていたが、H27、28年度は侵入盗事件が各1件発生した。また、29年、30年、31年度共に不審者情報が多数回寄せられているため、巡回時には、バス通りのみならず、伏尾台の周辺地域ならびに公園を重点的にチェックするよう隊員に要請した。 令和2年度からは、駐車違反やゴミ不法投棄、猫ことで度々地域住民に呼び止められることが多かったが、池田署や市役所への連絡でしか対応することができない。 朝のパトロールは主に定点立ちとし、小中学生を始めとする学生、通勤者らにあいさつの声掛けを積極的に行うことができた。 下校時並びに夜間の巡回時には、車載スピーカーを用いた放送により、登校下校時の子供の見守り、戸締まり方法、不審なセールス、アンケート調査への注意、夜間の不法駐車禁止を呼びかけることができた。 R4、5年度は、長髪軽装の男性の不審者情報が度々寄せられたが、地域住民の散歩と判明したが、引き続き通報が相次ぐ。 R5年度、除隊の申し出が4名、死去1名あったが、新たに2名入隊されたため、かろうじて現状維持が可能となった。 R6年度も体調不良で、3名の除隊申し出があり、補充隊員なしで何とか月～金のスケジュールを維持できた。	毎年課題は同じく、隊員の減少と現隊員からの出勤の曜日や時間帯の変更の申し出、さらに時刻以降の乗務希望者が限定されるため、運行スケジュールに空欄が多々生じている。 出勤が二人ペアが鉄則であるため、朝は一人で定点立ちとし、昼間は運転免許を保有しない65歳以上の高齢者の同乗をお願いして運行スケジュールを凌いでいる現状である。 交通に閉鎖的な地域が幸いして、パトロールにおける事故は全くなく、このまま安全にパトロールができることを願っている。	各部会からの報告を受け、役員会でまとめたものを総会で決定する。	昨年度に引き続き、SNSや若年層向け広報誌の作成の他、親子向けのイベントを増やすなどの取り組みが実を結び、季節イベント等における参加者数も増え、認知度向上につながっているものと大きく評価。一方で、運営を行う側の人員は依然不足した状態のままであり、担い手不足は解消できていない。近年の生活環境の変化による、地域活動への参加者数減少という社会的な問題が顕在化した例と捉えており、今後も継続性を担保するためには、運営体制の見直し、事業の取捨選択など必要であると認識するところ。	日々の地道な活動が地域の安全確保に繋がっている点を評価するとともに、本事業がより一層の犯罪抑止に繋がることを期待している。	危機管理課 一般管理費／自治振興費 総務課 財産管理費

地域行事等活動促進事業	200	行事報償金 200	行事を通して住民間の交流拡大に寄与するため、イベント開催の支援を行う。	子供会活動が衰退し、2丁目自治会、北自治会では子供は大勢いるが、恒例の夏まつりで子供御輿の巡行が2丁目だけでできなかった。平成25年度に軽量であるが、本御輿と同様の外観を有する子供御輿を新調することが協議会で決定されて以来、子供会の再編を含めて活動の強化を図る方策が種々取られた。 そして40周年記念となる夏祭りが平成26年8月23日に開催され、新調の子供御輿が大活躍した。育成者が子供会の活性化を真剣に議論できる状況となり、27年度は2丁目と3丁目の子供会が合併して子供会が無かった2丁目北自治会の子供たちが2・3丁目子供会に入会する強化策が取られることになった。 第40回記念の夏祭りを開催するも自治会活動のうち最も負担が大きいことから、平成26年度末をもって自治会連合会が解散となり、平成27年度の夏祭りが自治会主催で行われないことになった。 しかし、住民有志による第41回夏祭り実行委員会が立ち上げられ、夏祭りが平成27年8月22日に開催された。また同じメンバーによる第42回夏祭り実行委員会は、平成28年8月27日に夏祭りを開催し、さらに平成29年8月26日に第43回夏祭りが開催された。 一方子供会は、1丁目子供会と2丁目から5丁目まで全てが統合されたわんぱく子供会の2組織になった。 平成30年度も、住民有志による第44回夏祭り実行委員会が立ち上げられて夏祭りが平成30年8月25日に開催された。 本協議会役員が組織した伏尾台夏祭り実行委員会が主催し、R1年度も8月24日に第45回伏尾台夏祭りが開催された。 ほそごう秋祭りは11月3日に本協議会が支援する伏尾台合同防災訓練と合同開催された。11月3日9時30分より合同防災訓練が開催され、450名を超える参加者が7種の訓練を受けた。ほそごう学園3年生、8年生は全員参加して午後からの秋祭りの各種イベントにも参加し、国際交流センターのベトナムの若者たちや伏尾台地域住民との交流に貢献してくれた。 夏祭りは、R2年度の第46回、R3年度の第47回、R4年度の第48回、それぞれコロナ禍のため中止となった。 R5年度は、8月26日に第49回伏尾台夏祭りが開催された。久しぶりの開催で人手が多く、それと共にゴミが増加した。	令和6年8月24日に、第50回伏尾台夏祭りが開催できるように、夜間照明の設置費用旧北高校駐車場警備費用の一部と子ども御輿保険費用を補助しました。 祭り当日は、午前8時より12時まで、1丁目三角公園より子供御輿が巡航を始め、1丁目を巡航し、西公園で子ども御輿が4,5丁目へ引き渡され、次いで3丁目を巡航した。 午後からの夏祭り第二弾としてのスポーツ振興会主催のゲーム大会を開催した。 会場の伏小南校舎前に特設ステージを設け、かつ、秦野地区より借用したヤグラも設置した。午後5時からの音楽、ダンス、よさこいなどがフェスティバル形式で開催された。続いて、打ち上げ花火が行われた後7時30分より盆踊りを主とする夏祭りが開催された。 伏尾台地区の子供はもちろん、細河地区の子供たちのみならず、石橋、池田、川西地区からも多くの参加者があった。	育成者が子ども会の活性化を真剣に議論できる状況となり、協議会の委員としても子ども会の新旧の校区長が毎年加入していただき、さらに複数年度にわたり活動に参加してもらっている。 夏祭り実行委員会が自治会に開催協力と参加要請を行い、さらに地域の団体、商店などに広告募集を行うなど、地域のコミュニティ作りに貢献している。	子ども会は、1つに統合されて運営されるほど子どもの人数が減少している。R5年の夏は猛暑であり、午前中の御輿、午後からのゲーム、夕刻のフェスティバルに参加することが、極めて苦痛であるとの声が上がったので、R6年度は、午前の早い時間から短時間の御輿巡行のみ参加できるように企画したが、事項委員長がこれを無視する形になり、令和7年度から夏祭り不参加を決めた。 さらに、負担軽減策として午後からのゲーム大会を無くし、さらに、夏祭りの開始と終了時刻を早めることで、子どもだけでなく、関係者の負担軽減を図った。 住民有志による夏祭り実行委員会による、フェスティバル形態の夏祭りの企画は好評を得ているが、設営撤去が実行委員会全体でなく一部の委員に全負担がかかるため、7年度は借用する檣のみとすることを決定した。			祭りが開催されたことで、地域交流の場の創出になったものと認識している。 シティプロモーション課 自治振興費
------------------------	----------------	----------------------	--	---	--	--	---	--	--	---

地域コミュニティ推進協議会拠点運営事業	1,900	建物借上料 500 補助金 1,400	地域住民への協議会活動及び地域分権のPRを目的として協議会活動拠点の運営を行う。	コミュニティ推進協議会の活動拠点としての西公園事務所は、伏尾台周回道路沿いで西公園南側と目立つ場所に看板と掲示板を設置して広報活動を行っている。また、西公園事務所は、地域の「防災・防犯委員会」の活動拠点として、会議の他、年末の防犯防火の巡回拠点として活用してもらっている。さらに、地域内に季節毎の花を植える活動を行う地区福祉委員会の「花の会」の活動拠点として利用してもらっている。 平成27年10月3日に伏尾台コミュニティプラザを開設してその中に協議会事務所機能を移して、フリーサロン、子育て支援ルーム、まちの情報センターの運営を行った。このプラザ事務所には光ケーブルを引きコピー・ファックス複合機を備えて事務所機能を充実させた。 西公園事務所とプラザ内事務所との両方で活動を実施した。西公園事務所は、元来老朽化してた床の損傷が進行したため、東側の半分の床の張り替えを行なった。 平成30年度の伏尾台創生会議2020の事務や打ち合わせ、会議なども本事務所、コミプラで行われた。西公園事務所は、伏尾台地域に入ってすぐの目立つ立地条件のもと、webでのグーグル地図にも「伏尾台コミュニティ推進協議会」と表示されてストリートビューには黄色い看板が目立っていたが、強風の台風で落下寸前となり、直ちに撤去した。 平成31年度(R1)は、地域活性化事業の伏尾台 山びこコンサート、落語の開催をコミプラで行なった。夏祭り実行委員会の事務や打ち合わせ、会議なども本事務所、コミプラで行われた。コミプラ内の子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、平成28年度は7,903名、平成29年度は7,870名、平成30年度は7,597名、平成31年度(R1)は7,386名であった。 令和2年度は、実績で4,929名である。子育て支援ルームのみの利用者は1,155名であり、フリーサロンなどへは3,774名が来訪された。 一方、コミプラ内のエアコン1機が故障し、高額な交換作業が発生したが、事務費などの切り詰めなどで何とかしのぐことができた。 令和3年は、実績で4,500名であり、子育て支援ルームのみの利用者は623名であり、フリーサロンなどへは3,877名が来訪された。本年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、支援ルームを閉めたり、利用制限を行なったため、支援ルームの利用はコロナ禍前の3割程度と激減し、プラザ全体で40%程度の減少であった。 令和4年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、支援ルームを閉めたり、利用制限を行なったため、支援ルームの利用は約750名で微増であったが、プラザ全体では6,234名と大幅に増加した。 らくらく送迎サービスと共におでかけサポートグリスロの実証実験の拠点としてコミプラを活用できた。 令和5年度は、5,208名の利用を頂いた。減少理由は、高齢者のコロナ禍自粛が常態化したものと推定される。	協議会事務所を活動拠点としこれを運営するため、建物の整備を行い、活動に伴う水道代・電気代を支払った。また、PRを行うホームページ更新維持のためインターネット回線を維持し、活動の事務を行うためのコピーや通信事務を行った。西公園事務所とプラザ内事務所との両方で活動を実施した。 また、コミプラでは、伏尾台防災防犯委員会や各自治会の事務や打ち合わせ、会議などもコミプラが利用されている。よって、新型コロナウイルス感染症の第5類に移行後も、引き続き自動体温計とアルコール消毒液を設置して、安全第一で運営を行った。 さらに、月曜日から金曜日のコミプラの開館日に、3交代でスタッフが留守番を行い、キオスク端末利用者への対応、送迎サービスの予約受付を行い、閉館後にホールとトイレの清掃を行い、コミプラの維持管理を行った。 西公園事務所は、コミュニティ推進協議会はもとより、防災・防犯委員会並びに地区福祉の花の会の活動拠点として、それぞれ活用されている。	コミプラ内の子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には、名簿に記載をお願いしており、R6年4月1日からR7年3月31日までの実績で、6,213名の利用を頂いた。増加理由は、学園生をはじめとした子どもたちの毎日の利用、イベント参加者、キオスク端末の利用者増など全ての年齢層の増加が認められて、R4年度の利用者水準に戻った。 来訪者のうち、子育て支援ルームを主目的とした利用者は、約1,422名（R4 750名、R5 940名）とこれも大きく増加した。	コミプラのフリーサロンの利用者数は、コロナ禍で減少したが、これが回復し増加し、キオスク端末の利用も順次増加し、さらに、トイレのみの利用も多くなっており、換気と消毒を定期的に行う必要があり、日に数度のトイレ掃除を行う必要がある。 コミプラホールでは、ほそごう学園生の利用が高齢者の利用を上回る傾向にあり、それに伴い床が靴底の砂で損傷することが多くなり、ワックスでは対応が困難になり始めた。 子育て支援ルームの利用は年々減少しており、人口減少で未就園児の絶対数が少ない上、2歳児から預かる施設の利用も進むこともあり、減少は避けられない。しかし、R6年度は、伏尾台住民以外の利用とリビート利用が増加したため大きく増加している。 一方、子育て支援ルームのファミリーサポート事業の会場として利用できるようにしているが、これに伴う利用者の増加には結びついていないので、利用促進方法を考えていきたい。 また、はぐのさとの教室を利用して、親子ランドを設備し、支援ルームを利用できない幼稚園児以上の年齢の子供たちが、水遊びで利用できるようにしたところ、多くの利用をいただいたので、コミプラ前の公園を借りて、水遊び場の開設を検討したい。 プラザ事務所としては、コミュニティプラザがボランティア支援を含む「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できているので、コミプラには、建築協定連合委員会の事務局も配置しており、今後ともまちの不動産情報、特に空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。 コミプラの留守番役のスタッフ、現在10名（掃除スタッフ兼務2名）でローテーションを組んでいるが、減少の上、依然として絶対数が不足し、募集を行うも応募が全くない。			幅広い世代の住民が集い、また気軽に立ち寄れる地域の拠点として、住みよいまちづくりに大きく貢献しているものと評価。利用者が年間6,000名を超える一方で、管理側のスタッフ人員が手薄であり、一部のメンバーに負担が集中しているようにも感じる。利用者とスタッフがどちらも同じ住民であることを理解してもらい、プラザの今後のあり方について、地域全体で考えることを検討してほしい。 コミュニティ推進課 自治振興費
--------------------------------	------------------	------------------------------------	---	---	--	---	--	--	--	---

コミュニティサロン設置事業	600	建物借上料 500 補助金 100	地域の人々が立ち寄り、世代を超えた交流の活動場所としてコミュニティサロンを伏尾台コミュニティプラザに設置する。	伏尾台には2つのコミュニティセンターがあるが、利用には事前予約が必要であり、散歩の途中に立ち寄り休憩する処、待ち合わせや談笑する処、急に自治会の役員同士が打ち合わせする際など、気軽に利用できる施設がなかった。 平成27年10月伏尾台マンションの1階店舗部分を改修し、「伏尾台コミュニティプラザ」を設け、その中に有償、無償のボランティア活動の供給者、需要者に対して、情報の発信収集並びに斡旋、調整を図るためのボランティアセンターを含むまちの情報センターを設置運営した。プラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には名簿に記載をお願いした結果、10月3日より平成28年3月31日までの実績で3200名を超えた。 平成28年度は7,903名、平成29年度は7,870名、平成30年度は7,597名、平成31年度(R1)は7,386名であった。 里山の植物を紹介しているグループの展示会場として利用された。 総務省の推進事業で、池田市の伏尾台送迎サービス社会実験の会場として10月から12月に利用され、協議会会員がボランティアとして参加した。 地域交通の未来を考える公開講座の会場として利用された。 宿題カフェ会場として利用されている。 夏祭り実行委員会の会議、事務に利用されている。 ほそごう学園の地域学習の会場として利用されている。 高齢者の居場所づくり意見会の会場として利用した。 山びこフェスタの落語の会、音楽会の会場として使用した。 令和2年1月より始まった「伏尾台送迎サービス」、地域内限定の無料の送迎サービスにおいて、送迎の始点、終点のポイントとして機能している。 令和2年度は、実績で4,899名である。子育て支援ルームのみの利用者は、1,155名であり、フリーサロンなどへは3,744名が来訪された。 また、伏尾台送迎サービスが国交省の日本版MaaS実証実験の中に組み入れられて令和2年12月～令和3年2月に実施され、実験拠点として利用された。 令和3年度は、実績で4,500名であり、子育て支援ルームのみの利用者は623名であり、フリーサロンなどへは3,877名が来訪された。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、支援ルームを閉めたり、利用制限を行なったため、支援ルームの利用はコロナ禍前の3割程度と激減し、プラザ全体で40%程度の減少であった。 令和4年度は、令和2年1月より始まった「伏尾台送迎サービス」、地域内限定の無料の送迎サービスにおいて、送迎の始点、終点のポイントとして機能しており、R2、12-R3、2の国交省の日本版MaaS実証実験に続いて、R4、10-12に、トヨタグループの協力のもと、お出かけサポートグリスロの定時定路線の送迎サービス実証実験の送迎の始点、終点のポイント、待機拠点として機能した。 R5年度は、4月1日より翌年3月31日までの実績で5,208名である。そのうち子育て支援ルームのみの利用者は、約940名であった。	利用の形態は、日課の散歩の途中で休憩を取る方、待ち合わせやバスの時間待ちを行う方、フリースクールに通う生徒との待ち合わせを行う保護者、趣味の裁縫などをグループで行う方、自治会やサークル活動の打ち合わせ、ほそごう学園生の宿題をグループで行う生徒、試験前の高校生グループ、談笑するグループ、読書、昼食をする親子、孫と絵本を見る高齢者、買い物帰りに商品を仕分けする方、食事をする学生などまさにフリーサロンとして利用されている。 サロンは、らくらく送迎の始点、終点のポイント、待機拠点として機能している。もちろん、らくらく送迎の情報提供、登録受付場所としても機能している。 また、池田市の総合窓口の臨時会場として、マイナンバーカードの発行受付会場としても利用された。	伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で6,213名である。 そのうち子育て支援ルームのみの利用者は、約1,422名であった。	利用者を増やすために、積極的に地域の住民が主催するイベント、講演、各種教室などの企画とともに、単純な利用者の増大を図るのではなく、地域の年齢構成を考慮した子供から大人の多世代交流を促進してコミュニティを形成できる、イベント開催を想定する必要がある。			幅広い世代の住民が集い、また気軽に立ち寄れる地域の拠点として、住みよいまちづくりに大きく貢献しているものと評価。利用者が年間6,000名を超える一方で、管理側のスタッフ人員が手薄であり、一部のメンバーに負担が集中しているようにも感じている。利用者とスタッフがどちらも同じ住民であることを理解してもらい、プラザの今後のあり方について、地域全体で考えることを検討してほしい。 コミュニティ推進課 自治振興費
--------------------------	----------------	----------------------------------	--	---	--	---	---	--	--	---

まちの情報センター運営事業	600	建物借上料 500 補助金 100	地域のあらゆる情報を提供しボランティア活動者に対して情報発信や斡旋を調整、またコンビニ交付サービス端末を設置したまちの情報センターを伏尾台コミュニティプラザに設置する。	伏尾台にはコミュニティセンターやバス停の掲示板があり、自治会からのお知らせなどが掲示されているが、ボランティアの需要や供給に関する情報収集や提供がなかった。 平成27年10月伏尾台マンションの1階店舗部分を改修し、「伏尾台コミュニティプラザ」を設け、その中に有償、無償のボランティア活動の供給者、需要者に対して、情報の発信収集並びに斡旋、調整を図るためのボランティアセンターを含むまちの情報センターを設置運営した。プラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には、名簿に記載をお願いしており、10月3日より平成28年3月31日までの実績で3200名を超えた。 平成28年度は7,903名、平成29年度は7,870名、平成30年度は7,597名、平成31年度は7,386名で、子育て支援ルームのみの利用者は、2,176名であり、フリーサロンなどへは 5,210名が来訪された。 令和2年度は、実績で4,899名である。子育て支援ルームのみの利用者は、1,155名であり、フリーサロンなどへは3,744名が来訪された。 令和3年度は、実績で4,500名であり、子育て支援ルームのみの利用者は623名であり、フリーサロンなどへは3,877名が来訪された。 令和4年度は、実績で6,234名であり、子育て支援ルームのみの利用者は750名であり、フリーサロンなどへは5,484名が来訪された。 令和5年度は、実績で5,208名である。子育て支援ルームのみの利用者は約940名であり、フリーサロンなどへは約4,088名が来訪された。	フリーサロン内の壁を掲示板として活用し、まちの情報を、「地域学校行政」「地域環境」「安心安全」「協議会」「コミプラ」「子育て支援」「各種支援」「ボランティア活動」のカテゴリーに分けて種々掲示している。各種の活動紹介の依頼や、ポスターの掲示を願い出られるなど多くのグループに利用されている。 ほそごう学園、フリースクール、地区福祉、社協、池田署、防犯委員会、人権文化交流センター、池田市公益活動促進協議会の広報紙などを展示している。 市のキオスク端末が設置されて、行政証明書の発行手続き、写真印刷やコピーに住民が利用している。 キオスク端末の利用者は毎月順次増加している。 R6年度はフリーサロン内の東側の壁一面にコルクボードを掲示板として活用し、前年度の屏風型でキャスター付きの3連ホワイトボードを2組、同様の1枚の独立型と組み合わせで掲示形態を柔軟に変化させる事ができた。 新たに、パーソナルモビリティ車両の展示を行い、試乗会など通して高齢者の地域内移動促進の情報提供を行っている。	伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で6,213名である。子育て支援ルームのみの利用者は、約1,422名であり、フリーサロンなどへは約4,791名が来訪された。	フリーサロンは、日々は子育て支援ルームに訪れる母子、ほそごう学園の生徒が中心に利用しており、山びこフェスタのイベントの際や自治会、伏尾台夏祭り実行委員会などの会議の際には、伏尾台住民が多く利用されており、「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できている。 今後もボランティア活動のみでなく、まちの不動産情報や空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。 R5年度導入した屏風型でキャスター付きの3連ホワイトボードを2組サロンに配置して写真展、展示会など、同様の1枚の独立型を子育て支援ルームの開催イベント告知などに活用することを進めたい。 パーソナルモビリティ車両の展示は今後も継続させていきたい。			地域の情報拠点として認識され、コミュニティのつながりに寄与しているものと評価。新たに設置したパネルボードも、会員自らが工夫を凝らして施工し、経費削減・美観向上に努めていただいたものと認識。今後、一層の活用を期待。	コミュニティ推進課 自治振興費
子育て支援環境整備事業	780	建物借上料 500 補助金 280	幼児をもつ母親の子育て環境改善とコミュニケーションの場づくりを行うため、スペースの確保と用品等の拡充を図る。	平成22年度より、伏尾台第1コミュニティセンター内の一室を使用し、幼児向けの備品を整備し、乳幼児を育てる母親に気軽に集まれる場所として提供し、これを運営する子育て支援グループを立ち上げた。その後も毎週、部屋が開設される日時を決めて、無料登録制で参加者を募集する方法で運営している。 平成26年度は、会員は67組(134人)、ボランティア会員(12名)で構成され、伏尾台第1コミュニティセンターの小会議室を週2回借りて、子育てサロン「フレンズ」を開設した。年間、121組(延べ242人)の利用があった。上記活動の他、七夕とクリスマス時期の年2回、入園前会員宅を訪問して、手作りカードの贈呈、子育ての悩み等の聞き取りを行う活動を、延べ82回(延べ246名)行った。子育てサロン「フレンズ」を卒業した会員による「親子で遊ぶ会」を8月と12月実施し、23組(延46人)の参加があった。 平成27年度は、4月から9月は32組、伏尾台第1コミュニティセンターの小会議室を週2回借りて子育てサロン「フレンズ」を開設した。母子99名、スタッフ72名、延べ171名の利用があった。10月3日より、伏尾台コミュニティプラザが開設されて、子育て支援ルームにて活動を行う。10月3日から3月末までの半年間では、子育て支援ルームにて、母子1202名、スタッフ241名、延べ1443名の利用があった。 平成28年度は、登録会員数は76組、利用者数は母子2,276名・スタッフ393名の延べ2,669名であった。平成29年度は、登録会員数は80組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,377名であった。 平成29年度は、登録会員数は80組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,377名であった。 平成30年度は、登録会員数は90組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,309名であった。 平成31年度は、登録会員数は85組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,176名であり、社協のファミリーサポート事業との連携を進めた。 令和2年度は、子育て支援ルームのみの利用者は、1,155名であり、フリーサロンなどへは3,744名が来訪された。 令和3年度は、子育て支援ルームのみの利用者は623名であり、フリーサロンなどへは3,877名が来訪された。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、支援ルームを閉めたり、利用制限を行なったため、支援ルームの利用はコロナ禍前の3割程度と激減し、プラザ全体で40%程度の減少であった。 令和4年度は、実績で6,234名であり、子育て支援ルームのみの利用者は約750名であり、フリーサロンなどへは5,484名が来訪された。 R5年度は、子育て支援ルームのみの利用者は、約940名であった。夏休みには、兄弟姉妹が揃うため、未就園児以下を対象とするルームの利用は減少するため、親子ランドと称して、旧伏小の教室を利用して水遊びができるよう、年齢制限を外して開催したところ、7回で160名の利用があった。	子育て支援ルーム登録会員数は、未就園児が成長して幼稚園児となる家庭が多くなるとともに減少しているが、述べ940名の利用があった。 夏休みには、兄弟姉妹が揃うため、未就園児以下を対象とするルームの利用は減少するため、親子ランドと称して、旧伏小の教室を利用して水遊びができるよう、年齢制限を外して開催したところ、6回開催で120名の利用があった。	協議会主催のフレンズを中心に、ホップ君、自主サークルひよこ連携しての場となっている効果は大であり、細河地区や、池田市内、里帰り母子の利用も増え、ほそごう地域の親子の絆が深まる効果が出ている。 よって、母子交流の場として定着し、孤独な子育てから親子を守るという目的を達成することができている。 なお、令和3、4年度に、感染予防に対する意識が少ない母親が多く、清掃も後片付けも利用者がある程度行うことをお願いするも、綺麗で便利な施設があれば利用するが、掃除や片付けまではしたくないと明言する母親が多く、ルームが住民の管理下であり、一人のボランティアの負担が大ききことが理解できず、市の施設だから自分たちは掃除はしないという意識がととても強いことに驚いた。 そこで、使用形態を改善するためと称して、ルームの清掃や配置換えを行う5か月間、使用制限を行ない、利用者との話し合いを行い、ある程度の管理側と利用者側の理解が進み、結果、年間の利用者数の増加に繋がった。 ところが、R6年度その世代の未就園児が育って、次の世代になるとさらに若い母子となり、また前述の利用するだけの傾向が強くなってきている。	子育て支援ルームの使用に関する規則、感染症予防措置、清掃も後片付けも利用者が一定程度行うことを理解してもらう努力を続けていく必要がある。 子育て支援ルームの利用は年々減少しており、人口減少で未就園児の絶対数が少ない上、2歳児から預かる施設の利用も進むこともあり、減少は避けられない。しかし、伏尾台住民以外の利用が増えてきている。 一方、子育て支援ルームのファミリーサポート事業の会場として利用できるようにしているが、利用者の増加には結びついていないので、利用促進方法を考えていきたい。 また、はぐのさとの教室を利用して、親子ランドを設備し、支援ルームを利用できない幼稚園児以上の年齢の子供たちが、水遊びで利用できるようにしたところ、多くの利用をいただいたので、コミプラ前の公園を借りて、水遊び場の開設を検討したい。			母子交流の場として地域に定着しているものと認識。運営者・利用者間で、本事業の趣旨の共通認識と相互理解を図り、子どもにとって安全・安心な環境を整備するとともに、地域で子どもを育む風土醸成の実現を期待。	コミュニティ推進課／ 子育て支援課 自治振興費

				動を紹介し、過去の活動これからの活動課題を紹介した。 ふしおだい第26号は、令和4年12月末に全戸配布され、8月から12月まで実施されたイベントの写真を表紙にしたもので、第48回伏尾台夏祭り、9～11月の3回連続やまびこフェスタ、第41回伏尾台大運動会、総合防災訓練とほそごう秋まつり、特色ある公園づくり住民座談会、子ども会とのコラボの掃除、おでかけサポートクリスマス実証実験を紹介した。 ふしおだい第27号は、令和5年4月に全戸配布され、はぐのさと（旧伏尾台小学校）の活用が進んでいることの紹介写真と共に、教室を貸し出しスペースとして紹介している。R5年1～3月のやまびこ寄席の報告を行った。さらに、R5年度の活動予定として、夏休みに親子の居場所として親子ランドを開催する旨紹介し、コミプラに新たな掲示システムを導入することも紹介した。また、協議会のR5年度の実施予定事業を紹介した。 令和5年度は、年3回の発行に変更し、e-mail、ホームページ、SNSなどで広報とともに活用できるように、まず、Instagramを提供した。 ふしおだい第28号は、令和5年9月に全戸配布され、初めて野外で夕刻からの山びこフェスタの様子を表紙にして、夏休み向けの親子ランド、伏尾台の夏祭り用ステージの背景画を子供達が描く様子、夏祭り、初めて宿泊行事の避難所設営訓練キャンプの開催を報告している。 ふしおだい第29号は、令和6年1月に全戸配布され、11月22日に旧伏小で開催された伏尾台生誕50周年記念事業の様子を表紙にし、手芸教室、人形劇、山びこ寄席、朗読会、総合防災訓練、秋祭り、初めてで大盛況の餅つきの様子、子ども会も参加した歳末警戒パトロールを報告している。 ふしおだい第30号、令和6年4月に全戸配布され、3月22日のリニューアルオープン後の遊具で遊ぶ子供達の様子を表紙にして、新しい北中央公園の様子とともに子育て支援ルームの利用案内を掲載し、山びこ寄席、折り紙教室の開催を報告し、伏尾台桜まつりで桜マップの作成のための写真募集を広報している。					
地域情報発信管理事業	80	補助金	80	協議会の活動状況やイベント情報を地域住民に発信する。	令和6年度は、前年度からのLINEの公式アカウントを引き続き維持し、LINE Instagram Facebook HPアンケートの利用促進のため、地域コミュニティ紙発行事業で、全世代向けの広報誌を年2回、若年層向けの広報誌A4版を2回発行した際に、広報誌に導入用のQRコードを記載した。 広報誌、イベント紹介などの協議会活動の情報を発信した。	Instagram、LINEにて情報提供したところ、協議会活動に関心を持つ、池田市内外の方々から見学などの申し込みがあった。 音楽落語などの山びこフェスタのポスターを紹介することができた。 また、避難所設営訓練キャンプの開催告知と参加申込に関し、池田市内複数地域からの問い合わせ申し込みがあった。 10月下旬のハロウィンイベントの開催告知と参加申込に関し、地域内からの問い合わせ申し込みがあった。 3月の伏尾台桜まつりに関して開催告知を行ったところ、多数の集客効果が得られた。	令和7年度は、広報誌発行事業において、従来の高齢者を含む全世代向けの広報誌を年2回、若年層に興味を持ってもらえる紙面の広報誌を年に4回程度発行することを想定している。 紙面の発行とInstagram、LINEとが連携した形態でコンテンツの内容、情報発信時期などを考慮して、効率の良い情報発信と情報収集を行う必要がある。	イベントの周知を積極的に行っている。 InstagramとFacebookのリールを活用し、地域を紹介している工夫など新たな取り組みを継続してほしい。	広報広聴課 自治振興費
				伏尾台防災・防犯委員会は、地域の5つの自治会より配分される50円×1200戸以下の予算で運営されている。毎年の総合防災訓練は、参加人数が300名程度で自治会からの配分予算では厳しい状況である。（R1年度1074戸毎年減少） 平成30年度は、4月21日防犯教室を開催し35名が参加。6月18日大阪北部地震に伴い地域内の安全確認、点検を行った。 7月8日、4箇所の防災備蓄倉庫の資機材点検を行った。 8月4日に、災害時安否確認対策として災害時声かけ協力員の登録制度を整備して、88人の登録を得た。 8月25日は、伏尾台夏祭り会場で延べ45名が、無線機を使用して交通整理、巡回警備を行い安全に夏祭りが開催された。 10月6日に安否確認・避難誘導マニュアル訓練を行い58名の参加を得た。10月19日に普通救命講習受講13名参加。 11月4日はほそごう学園にて8年生全員が学校行事参加し防災総合訓練が行われ350名の参加を得た。11月15日、大阪府警本部交通管制センターの見学会を開催し、23名の参加を得た。 12月27日、29日、30日の年末特別警戒には延べ110名が参加した。 2月2日、大阪府警本部主催の特殊詐欺撲滅特別キャンペーンに参加、18名の参加を得た。 3月2日、安否声かけ協力員とともに合同の阪神淡路での声かけ避難誘導・避難所体験講習会を開催し、60名の参加を得た。 平成31・令和1年度は、4月25日午後7時より防犯教室を開催、45名が参加。 6月2日、防災サイレン鳴動聞き取り訓練に22名参加。 8月3日、災害時避難所開設と運営訓練で50名が参加した。					

伏尾台地区活性化事業	280	補助金	280	地域住民を対象としたミニコンサートなどのイベントを実施し地域の活性化を図る。	毎年2～3回の音楽コンサート、1～3回の落語会を開催し、既に22回開催してきた。季節を感じられるイベントとして地域に「ふしおだい山びこフェスタ」と認知され定着している。 平成28年度は、野外コンサート1回、室内コンサート3回、小児科専門医との座談会1回、落語の会1回を開催した。 平成29年度は、室内コンサート3回、小児科専門医との座談会1回、落語の会2回を開催した。 平成30年度は、室内コンサート2回、落語の会2回を開催した。 平成31年度は、室内コンサート2回、落語の会1回、屋外コンサート1回を開催した。これまで31回の山びこフェスタを開催した。 令和2年3月上旬に予定した落語の会を新型コロナウイルス感染症の拡散防止のため中止して以来、令和2年前期も引き続き、イベント開催を中止した。 10月25日(日)午後から旧伏尾台小学校職員室にて、第32回山びこ寄席 二人会を開催した。11月2日(日)午後から旧伏尾台小学校職員室で、福留敬とアブサント室内合奏団(演奏者7人)による第33回音楽ライブを行った。 令和3年度は、事業提案限度額削減のため、事業提案できなかった。 令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の拡散防止のため、換気を行うコミブラ入室に際し、人物特定、検温、手のアルコール消毒を行い、座席間隔を取り50人定員とし、マスク着用で着席していただく形で、山びこフェスタを、音楽3回、落語3回、合計6回開催した。 R5年度は、7、11、2月の3回の落語、1月に朗読劇、計5回の山びこフェスタを、コミブラにて開催した。9月に音楽会を、旧伏小南校舎前の屋外で開催した。	R6年度は、6月の音楽会を旧伏小南校舎前の屋外で開催した。1～3月の3回の落語の山びこフェスタを、コミブラにて開催した。 コミブラでの開催は、密を避けるため。定員を50名として広報したが、毎回60名を超える入場者を得た。 6月12日(土)アニソンMAGUMA 歌とトーク リビート山中 1月25日(土)落語の会 桂雀三郎 桂鯛蔵 2月22日(土)落語の会 桂楽珍 笑福亭喬明 3月22日(土)落語の会 林家菊丸 笑福亭笑有	特に、音楽会は初の15時から子供向けイベントと2部のコンサート開催で、たこ焼き、かき氷の屋台と飲料販売もあり、雨であったが、4時間の開催で述べ300名の参加を得た。 落語会は、それぞれ60名超えの盛会であり、地域住民の憩い並びに交流を深めることができた。	例年のとおり、参加者は異口同音に伏尾台で生で音楽や落語が楽しめて良かったと言ひ、継続要望が多かったが、本年度も参加者にボランティアスタッフを呼びかけるが、応募が全くなかった。 過去、広報の仕方や音楽のジャンルで参加される方の顔ぶれが変わり、参加人数が異なり、天候に左右されやすいことなど集客に課題が多かった。 今回、音楽会は雨天であり、会場を旧職員室で行ったが、子供向けイベントを行い、屋外にテントを張り、たこ焼き・かき氷の屋台と飲料販売を併設した効果があり、盛況となった。従って、落語、音楽などのジャンルにとらわれない内容や開催方法などを検討する必要がある。
伏尾台創生会議2020宣言広報事業	30	補助金	30	伏尾台創生会議2020で採択された伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言を広報するため、新吉田橋のライトアップとサイン設備を維持管理する。	市の公募により平成28年1月に組織された伏尾台創生会議2020は、平成28年3月26日に伏尾台地区再生のための提言を市に提出するとともに、伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言を行なった。 この宣言を聞いた伏尾台住民が、伏尾台の入り口である「新吉田橋」のライトアップと上記の宣言を広報するサイン設備を寄付してくださることになり、平成28年11月末に設備が完成した。 市への寄付設備の贈呈が行われたが、11月からの電気代などの維持管理はコミュニティ推進協議会が行うことになった。	「新吉田橋」のライトアップ装置は、コンピュータ制御によるLEDライト設備で、予め設定された日没から夜明けの夜間のみ点灯されるため、比較的安価な電気代で維持できた。 また、伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言が書かれた横断幕を住民の手で、点検することができた。しかし、退色が進み、汚れが目立つようになっている。	新吉田橋の欄干に設けられた横断幕は、国道423号線の北行き車線から容易に視認できるため、伏尾台地区がここにあること、子育てにやさしいまち宣言した地区であることを国道往来者に広報できている。 1丁目に居住し、出産した30代夫婦は、横断幕を見て地域を見学し、保育所などが近いことから居住を決めたという。同様の意見を複数聞いた。 また、夕方から夜間に帰宅する伏尾台住民は、ライトアップされた新吉田橋を見ることで、我が家に帰ってきたことを実感できると、好評である。	協議会としては、電気代の支払いのみの管理しかできない。住民にとっては、横断幕の点検はできるが、その清掃や修繕などは不可能である。 特に、横断幕を取り付けている部分の橋の欄干がかなり汚れている。新吉田橋自体の保守を考慮すると、R7年度で設置後9年を経過して10年目を迎えるため、抜本的な解決策を検討する必要がある。 また、ライトアップ装置の点検維持も住民には行うことができないが、故障等は発生していない。

悪天候の中、テントの活用や屋台の出店など工夫しながら運営いただいたことから、多くの来場者数を得られたものと思料。次回からアンケート結果やイベントごとの来場者数等の資料添付についてお願いしたい。	人権・文化国際課 自治振興費
新吉田橋のライトアップにより、伏尾台地区のにぎわい創出に寄与している。	土木管理課 自治振興費

